

# ツムラ環境・社会活動報告書 2009

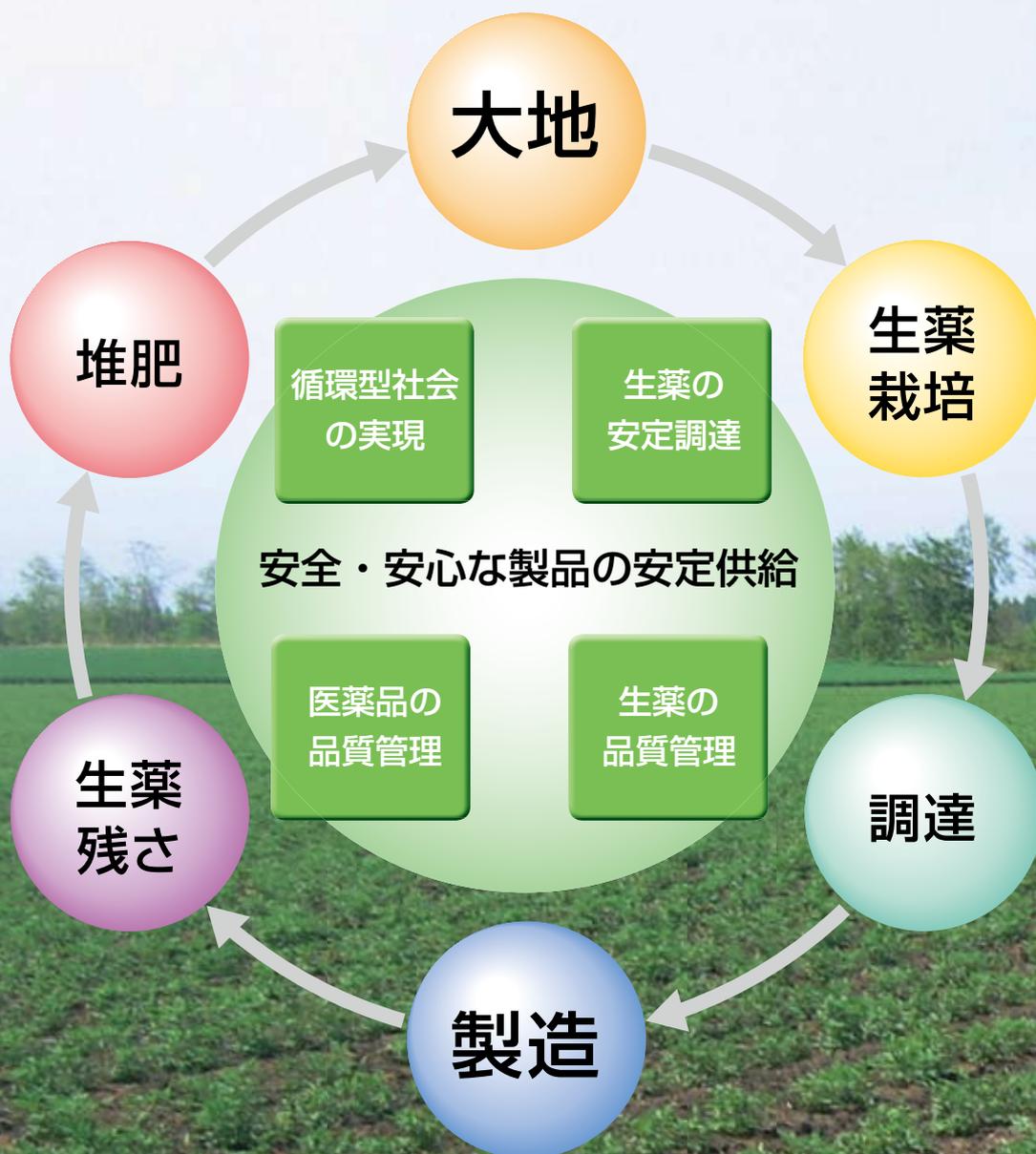
Corporate Social Responsibility Report



# ツムラが大切にしたいこと

ツムラの経営理念は「自然と健康を科学する」。  
社会から評価され、存続し続けるための企業活動の原点です。  
漢方を通じて患者さまの苦しみを少しでも和らげ、人々の健康に貢献したい。  
ツムラは生命関連企業として漢方を通じ社会的責任を全うしていきます。

## ツムラの事業サイクルと4つのコア



自然の恵みである生薬を原料とした漢方製剤を「事業」とするからこそ、高品質な漢方製剤を安定供給することは何にもまして重要な責務であり、自然の恵みによって成り立つ「事業」だからこそ、責任をもって自然と共生するために必要な「循環」の仕組みを構築すべきであると考えています。

### 編集方針

環境保全に対する考え方や活動内容をお伝えすることを目的として、2001年度から自社の環境保全活動をホームページで報告し、2002年度から環境報告書を発行してきました。2005年度からは、当社が最も重要と考える環境への取り組みに、社会的責任に対する考え方や活動の報告を加えた「環境・社会活動報告書」を発行し、さまざまなステークホルダーとのかかわりについての情報開示に努めています。

2009年度は、マテリアリティの原則に従い、当社グループにとっての重要度とステークホルダーの関心度の高いトピックを優先的・重点的に報告する方針で編集しています。



ツムラホームページ  <http://www.tsumura.co.jp/>

作成にあたっては、環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」とGRI「サステナビリティ レポートニング ガイドライン(第3版)」を参考にしました。

本報告書で当社とはツムラ単体を指し、ツムラグループとはツムラおよび連結子会社を指します。

第三者による検証を実施し、確認を行ったデータなどについては  を付記しています。

### 報告対象期間

パフォーマンスデータは2008年度(2008年4月1日～2009年3月31日)の実績です。定性的な報告内容には2009年度の活動内容を含み、その都度対象期間を明記しています。

### 報告範囲

パフォーマンスデータの集計範囲は、株式会社ツムラ国内事業所、株式会社クリエイティブサービス、株式会社ロジテムツムラ、上海津村製薬有限公司、深圳津村製薬有限公司です。集計範囲が上記と異なる場合は、その都度対象報告範囲を明記しています。

### 前回からの変更点

株式会社ツムラは、2008年8月29日にツムラライフサイエンス株式会社の全株式を株式会社ブルメリアに譲渡しました。これに伴って、パフォーマンスの集計範囲からツムラライフサイエンス株式会社を除外しています。

発行日 2009年8月  
 前回発行日 2008年9月  
 次回発行予定 2010年8月

ツムラが大切にしたいこと	1
編集方針	2
ツムラグループネットワーク	3
トップコミットメント	5
漢方薬にできること	7

特集1：漢方製剤の安全・安心・安定供給	11
特集2：低炭素社会への貢献	17
特集3：漢方を通じた社会とのコミュニケーション	19

コンプライアンス	23
コーポレート・ガバナンス	25

社会とともに～社会貢献活動	27
お客様とともに～コミュニケーション	29
株主・投資家の皆様とともに	31
従業員とともに	33

環境基本理念・環境基本方針	37
2004～2008年度主要な環境パフォーマンス指標の推移	38
地球温暖化防止	39
水資源保護／化学物質管理	40
廃棄物削減・再資源化	41
エネルギーや物質の流れ	42
環境マネジメント	43
環境教育・啓発	44

地球温暖化防止／大気汚染防止	45
化学物質管理／廃棄物削減・再資源化／オフィスの取り組み	46
水資源保護／環境会計	47
経済性報告	48
環境・社会活動のあゆみ	49

第三者検証報告書	50
----------	----

事業概要

特集

コーポレート・ガバナンス

社会とツムラ

環境とツムラ

データ編

# ツムラグループネットワーク

## 自然と健康を科学する 株式会社ツムラ

### ■ 会社概要 (2009年3月31日現在)

株式会社ツムラ

創業 1893年(明治26年)4月10日  
 設立 1936年(昭和11年)4月25日  
 本社所在地 〒107-8521 東京都港区赤坂二丁目17番11号  
 資本金 19,487 (百万円)  
 従業員数 2,205名



### ■ 製品紹介



#### 医療用医薬品

医療用漢方製剤 129 処方を中心に、新薬、調剤用の刻み生薬などを提供しています。新薬ではウィルソン病治療薬の「メトライト 250 カプセル」などがあり、医療に貢献しています。

2008 年度 国内医療用漢方製剤の市場における当社シェアは 83.1% です。  
 © IMS Japan KK 2009 出典：IMS 医薬品市場統計 期間：2009 年 3 月 MAT 無断複製禁止  
 ※ 医療用外用抗真菌薬「アスタット®」は、2009 年 2 月 23 日をもって製造販売承認をマルホ株式会社に承継しました。



#### 一般用医薬品

一般用医薬品の分野でも、漢方薬の優れた効果をより多くのお客様に届けるために、42 処方にもとづく製品ラインナップを揃えています。風邪薬や胃腸薬はもちろん、滋養強壮内服液、漢方トローチなど当社の生薬・漢方研究の成果は身近な場所で広く親しまれ、活用されています。



### 原料生薬の調達・集積を行う中国の拠点 深圳津村薬業有限公司



深圳津村は、1991年に中国産原料生薬の調達、選別加工、品質管理、保管を行うため設立しました。品質試験などを行い、品質と安全を保証した原料生薬を上海津村および日本の工場に供給しています。また、生産地情報の収集、産地指導などにより、中国産原料生薬のトレーサビリティの基地としての役割を担っています。

### 日本と同等の設備を持った海外最大の生産工場 上海津村製薬有限公司



上海津村は、2001年に医療用漢方製剤の中間製品であるエキス粉末の生産を行うため、日中合併企業として設立しました。深圳津村より原料生薬を調達し、エキス粉末に加工して日本の工場に輸出しており、製品の安定的な供給の一端を担っています。

### 製品の安定供給を支えるツムラ物流の中核 株式会社ロジテムツムラ



ロジテムツムラは、1973年に設立し、現在は東西2拠点の物流センターで、当社製品の保管・配送業務を軸として運営管理を行っています。また、生産工場から拠点への製品・生薬の輸送業務を展開し、当社の物流を担っています。最適なロジスティクスの提案を通じて、物流の効率化、コスト削減にも貢献しています。

### 患者さまとダイレクトに接するリテール業務 株式会社クリエイティブサービス



クリエイティブサービスは、漢方薬の処方せんを主に調剤する保険薬局として1986年に設立しました。当薬局では、当社製品を中心に多くの医療用漢方製剤を備えるとともに、日本薬局方で定める刻み生薬を常備しており、多様な漢方関連のニーズにお応えするよう態勢を整えています。

#### ツムラ ライフサイエンス株式会社の株式譲渡について

子会社でありましたツムラ ライフサイエンス株式会社の全株式を、2008年8月29日づけで、WISE PARTNERS 株式会社が運営するファンドが全株式を保有する株式譲受目的会社（株式会社ブルメリア）に譲渡しました。譲渡に関する詳細は、以下のURL をご参照ください。

<http://www.tsumura.co.jp/kaisha/release/2008/pdf/20080715tIs.pdf>

## トップコミットメント

漢方・生薬事業を通じ、  
「社会や人々のお役に立てる企業」、  
「人に優しい企業」でありたいと考えています。



### ● 真に強い企業を目指して

企業は一般的に、効率性や利益の追求に一生懸命になり過ぎて、ややもすると社会の一員であることを忘れがちになります。今回、新たな生薬栽培地として進出を決めた夕張の件で寄せられた好意的な意見は、企業が社会の一員であることを強く意識させるものでした。企業はボランティア活動としてではなく、その事業により社会や人々のお役に立てること、人に優しいことで世間の人々に感動を与えることができる。そのようなことができる企業こそ、真に強い企業であると私は信じて行動してきましたが、夕張の件でそのことを確信しました。

このような観点から、私は「漢方・生薬事業を通じて、社会や人々のお役に立てること、人に優しい企業であること」を今後、会社が事業を行う上での中心に据えることにしました。

自然の恵みである生薬の栽培を起点とした循環型事業サイクルの確立を目指す企業として、自然環境や地域社会との共生に経営の重点を置くことはもちろん、障がい者の方々のさらに積極的な雇用をすすめ、従来にも増して、働きやすい職場環境を提供していきたいと考えています。

### ● 漢方・生薬事業に特化した新たなステージの展開

2007年度、中期経営計画活動目標を掲げ、一つひとつの活動目標を着実にクリアすること

経営理念

自然と健康を科学する

基本基調

社会や人々のお役に立てる企業  
人に優しい企業

活動目標

漢方医学と西洋医学の融合により  
世界で類のない最高の医療提供に貢献します



## 2009 - 2011年度 中期経営計画 活動目標

漢方医学の確立：	全国80大学医学部・医科大学における漢方医学教育の充実、及び付属病院への漢方外来の設置に向けた支援を継続する。
育薬の推進：	近年の疾病構造を見据え、医療ニーズの高い領域において新薬治療では難渋している疾患で、医療用漢方製剤が特異的に効果を発揮する疾患に絞って、エビデンスを確立するために継続して育薬推進活動を展開する。また、新たな育薬処方についても検索を行い、積極的に育薬の推進を実施する。
漢方の国際化：	育薬の推進との連携により、国内における基礎・臨床の最新のデータを米国の臨床試験の手続きに連携させる体制を整える。また、日米オーソリティドクター同士の情報交換を推進し、より効率的な開発体制を構築し、「TU-100（大建中湯）」の開発を進める。
生産能力の増強と品質管理体制の充実：	エキス粉末製造棟の増設、造粒棟の建設、包装設備導入など設備の更新、効率的な要員配置を進め、医療用漢方製剤の需要の増大に対応する。品質管理体制は、分析センターを中心に、検査の統一化と効率化を図る。
安全な生薬の安定確保：	トレーサビリティ体制を充実させ、国内外の産地における栽培方法・栽培管理の統一化を進め、安全で安心できる原料生薬の安定確保に継続して取り組む。
開かれた会社の創造：	引き続き、企業価値の向上を目指したマネジメント体制を構築し、当社を取り巻く多様なステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、企業姿勢を明確に示す。

ができ、2008年度の医療用漢方製剤の売上は、数量ベースで10%を超える伸長を示し、主要項目の全てにおいて達成することができました。

2009年度から始まる新中期経営計画を「漢方・生薬事業に特化した新たなステージの展開」と位置づけ、「漢方医学と西洋医学の融合により世界で類のない最高の医療提供に貢献する」という活動目標と、それを実現するための6つの具体的な目標を設定し、全社一丸となって取り組んでいきます。

### ● 安全・安心な漢方製剤を安定供給

安全・安心な漢方製剤を安定的に供給するためには、厳格な「品質管理」と出所の明確な原料生薬の「安定確保」が必要になります。「品質管理」については、原料生薬および漢方製剤の安全性と品質を確保するため、2008年10月に分析センターを設置し、残留農薬、微生物、重金属の主要検査を集約することで、検査の統一化と効率化を図りました。

「安定確保」については、国内外の原料生薬生産地における栽培方法、栽培管理の統一化を実施するとともに、生産農家と長期の栽培契約を進めています。また、栽培地および栽培面積の拡大を図るとともに、野生生薬の栽培化研

究に取り組んでいます。加えて、情報の追跡と遡及を可能とする「生薬トレーサビリティ体制」の確立に取り組んでいます。これにより、製造工程、流通過程の履歴情報に加え、生薬生産地から医療機関まで全履歴情報の遡及が可能となります。

### ● 低炭素・循環型社会の実現

自然の恵みによって成り立つ「事業」だからこそ、責任を持って自然と共生するために必要な「循環」の仕組みと豊かな自然環境を築かなければなりません。当社の主な廃棄物は生薬残さであり、堆肥化などで全量を再資源化していますが、新たな再資源化方法として、バイオエタノール化への検討もすすめています。また、温室効果ガスの排出抑制をツムラ中期目標に掲げ、積極的な環境保全活動により、低炭素・循環型社会の実現にむけ貢献していきます。

2009年8月

代表取締役社長

著井 順一

# 漢方薬にできること

生薬の力を引き出し、人の病気を治す力を高める。  
漢方は、古代中国で生まれ日本で育った独自の医学です。  
その伝統に育まれた漢方の力を、科学的に解明することを通じて、  
現代の社会に広く貢献する漢方医学の可能性が広がります。



コウボク  
厚朴

## ■ 漢方ってなに？

漢方の基本的な考え方は、人がもっている「病気を治す力」を高めることです。漢方薬とは、本来、漢方医学に使用される薬のことで、天然物である生薬（薬草の根や茎、葉などの有用部分を乾燥させたものや動物由来のもの、鉱物など）を、原則として2種類以上組みあわせた薬です。漢方薬も現在、基礎・臨床研究が進み、科学的な解明がなされつつあります。剤型としては、「湯剤」「散剤」「丸剤」「エキス剤」などがあります。医療用漢方エキス製剤が健康保険に適用されて以来、煎じる手間がはぶけ手軽に携帯できる漢方製剤として全国の大学病院をはじめ多くの医療機関で使用されています。

## ■ 漢方は日本独自の医学です

漢方は、治療に対する人間のからだの反応を土台に体系化した医学といえます。古代中国に発するこの経験医学が日本に導入されたのは5～6世紀頃。日本の風土・気候や日本人の体質にあわせて独自の発展を遂げ、わが国の伝統医学となりました。17世紀頃、特に大きく発展して体系化され、現在へと継承されています。漢方という名称の由来は、日本へ伝来した西洋医学である「蘭方」と区別するためにつけられたものであり、もちろん、中国の伝統的な医学である「中医学」とも異なります。まさに漢方は、日本独自の医学なのです。



漢方医学の原典である「傷寒論」(1813年 和刻本「宋版傷寒論」)  
古代中国の漢時代に張仲景により著され、宋代に出版された

## ■ 証を知るのが漢方治療の第1歩

「証」とは、患者さまがどんな体質か、病気がどんなふうに見えているかなどを漢方医学的な診察方法を用いて総合的に見極めた診断結果です。証を診断するための物差しはいくつかありますが、ここでは「虚実」「瘀血<sup>おけつ</sup>」について説明します。

虚実：その人の体質や体力、病気に対する抵抗力を虚証・実証・中間証として表します。同じような症状でも虚実の違いなどで使う漢方薬が異なり、証を間違えて使うと効果が現れないばかりか、副作用を起こすことがあり、注意が必要です。

瘀血：漢方では「気・血・水」という3つの因子で病態を把握します。「気」というのは、病気の気、元気の気のように精神的な部分やエネルギーのようなもので、「血」は主に血液の循環を指します。「水」は血液以外の水分代謝のことで、むくみやめまいが関係します。病気はこの3つが影響しあって起こると考えられています。瘀血は血液の流れがスムーズにいかなくなる状態です。女性は月経などで骨盤内のうっ血がおこりやすいため、女性疾患は瘀血が原因であることが多いのです。

## あなたは虚証？実証？中間証？

質問	チェック項目	点数
①比較的体力がある		2
②寝汗をかきやすい		-2
③意欲、気力が充実し積極性がある		2
④胃腸が丈夫である		2
⑤夏バテしやすく冬は風邪を引きやすい		-2
⑥顔色がよく、皮膚につやがある		2
⑦冷たいものを食べると下痢をしやすい		-2
⑧お腹に弾力が有り、骨格ががっちりしている		2
⑨食が細く食べるのが遅い		-2
⑩月経初期に痛みが強く、血塊が出たり経血量が多い		2
合計点		

「体にやさしい医療、女性の健康と漢方」より引用

当てはまる項目の点数を合計して、0点以下になった人は虚証、2～6点は中間証、8点以上は実証のタイプに近いことが考えられます。ただし、これはあくまでも証を理解していただくための目安で、正確な診断にはなりません。正確な証の診断は、専門医の診察を受けましょう。

お近くで漢方薬を処方してくれるお医者さんを探してみませんか？

漢方のお医者さん探し  
<http://www.gokinjo.co.jp/kampo/>



キキョウ  
桔梗



ソヨウ  
蘇葉

## ■ 漢方薬の特徴

漢方は、病名で診断することなく、患者さま一人ひとりの体質や病気の状態を見きわめながら、最適な漢方薬を使い分けていく、いわゆる「オーダーメイド」の治療といえます。1種類の生薬だけでは薬効の限界があるため、病気の状態や患者さまの体質にあわせ、複数の生薬を組みあわせませす。生薬の組みあわせは、長年にわたる人体への使用経験により漢方医学として確立し体系化したものにもとづいており、これにより総合的な治療の効果が発揮できます。

漢方薬には副作用がない、とよく言われますが、これは間違いです。漢方薬も医薬品であり、副作用はあります。また、からだにあわない強い薬を服用したり、大量に服用すると、予期せぬ症状が起きる可能性があります。用量・用法を厳守するとともに、医師や薬剤師の指導を受ける必要があります。

## ■ 民間薬やハーブとの違い

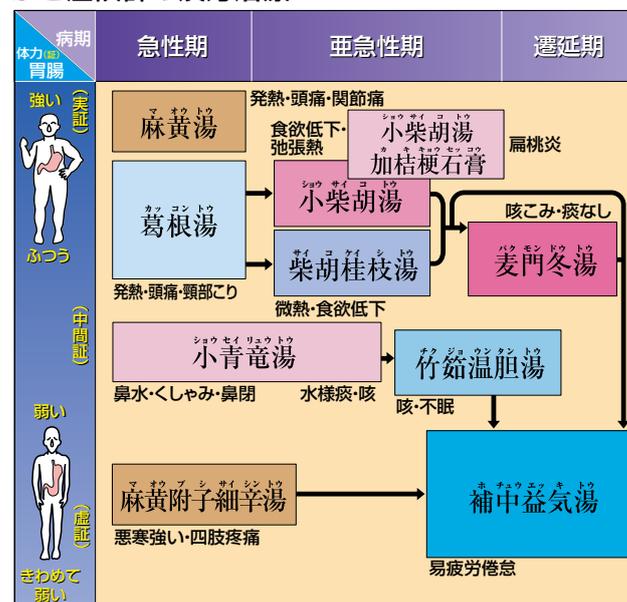
### 民間薬は、生活の知恵で伝えられてきた薬です

民間薬とは、古くから言い伝えられ、利用されてきた薬草で、普通はひとつの症状に1種類の植物だけを使います。昔からの経験を言い伝えた、いわば生活の知恵で、お医者さんが処方薬として用いることはありません。また、最近ブームになっているハーブも、ヨーロッパなどの生活に古くから根づいている民間薬で、料理や健康増進のために利用されています。

### 漢方薬は、体系化された論理にもとづく薬です

漢方薬は、数千年にわたる効き目や安全性に関する豊富な経験にもとづいて、特有の理論体系を築き上げ、その理論と患者さまの症状に応じて、いくつもの生薬を組みあわせて使うようになっています。

## かぜ症候群の漢方治療



「かぜ症候群の漢方治療ABC」(監修)松田邦夫先生 より転載

## ■ 西洋薬との違い

### 西洋薬は、切れ味の鋭い、速効性のある薬です

化学的に合成された有効成分から作られているため、その分切れ味が鋭く、速効性があることが特徴ですが、反面、効き目が強く出過ぎたり、使い方によっては好ましくない作用が出てしまうこともあります。

### 漢方薬は、多彩な症状に対応できる薬です

現代の漢方薬は、植物由来のものを中心に多数の生薬(当社の医療用漢方製剤の原料生薬は118種類)が使用されています。漢方薬は、いくつもの成分が助けあって働くことで、多彩な症状に作用を示します。

# 漢方薬にできること



## ■ 漢方医学と西洋医学の融合

さまざまな独自の特性をもつ漢方薬は、現代社会においてもあらためてその価値が認められるようになってきました。漢方医学と西洋医学のそれぞれの長所を融合し、日本ならではの医療として確立されることで、当社は世界で類のない最高の医療提供に貢献できると考えています。

## ■ 現代医療と漢方

### ベーシックドラッグファーマとして

国際的に魅力ある創薬環境・医薬品市場の実現および医薬品産業の国際競争力を強化する観点から、2007年に厚生労働省は「新医薬品産業ビジョン」を公表しました。この中で製薬企業のむかう方向性として規定された5つのカテゴリーのひとつとして「ベーシックドラッグファーマ」が新しく定義されました。これは「医療を支える基礎的な医薬品、必須医薬品又は伝統的な医薬品を効率的かつ安定的に供給する企業」というもので、伝統的な医薬品とは、生薬・漢方製剤であることが明記されました。

### 性差医療と漢方

社会において女性と男性の性差 (gender) に対する認識が広まってきており、医療の世界でも「性差医療」として注目されています。医療施設では、特に女性特有の疾患や症状などに対応する女性専門外来を開設する動きがあり、現在全国で300を超えています。漢方薬は、女性特有の不定愁訴などにもきめ細かく対応できる薬剤として、多くの期待が寄せられています。

### 高齢者と漢方

加齢に伴って体力や免疫力が低下した高齢者においては、複数の診療科を受診したり、愁訴・疾患ごとにたくさんの薬が出され服用し切れないなどの問題が発生しています。漢方薬には、免疫力を高めるといった報告があったり、ひとつの処方でも多種類の愁訴・疾患に対応できるものもあるなど、西洋薬には見られない長が注目されてきています。

## 漢方薬の経済性

漢方薬は保険が効かない、価格が高い、などのイメージがあるようですが、実際には、医療用の漢方薬は健康保険が適用されています。さらに、ひとつの薬剤で複数の症状に対応できるものもあり、かぜ症候群に対する治療において漢方薬治療群と西洋薬治療群を比較したところ、ひとりあたりの平均総薬剤費が漢方薬治療群では西洋薬治療群の約3分の1に削減されたとの報告\*1があります。また、大腸癌に対して開腹手術あるいは腹腔鏡下手術を行った例を対象に、漢方薬の大建中湯を術後に投与した群では、投与しない群と比較して、いずれの手術においても入院日数を短縮できたとの報告\*2もあります。これらの例が示すように、漢方薬は、これまで西洋医学だけで治療されていた分野で、大きな経済的メリットをもたらす可能性が期待されています。

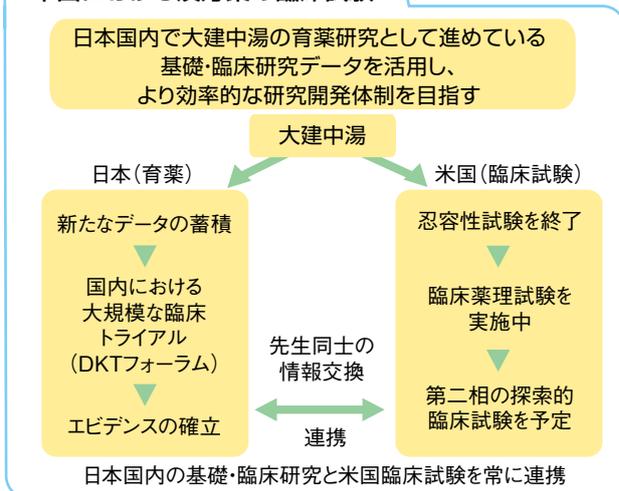
\*1 赤瀬朋秀 ほか・日本東洋医学雑誌・2000, 50(4), p.655-663

\*2 壁島康郎 ほか・日本消化器外科学会雑誌・2005, 38(6), p.592-597

## ■ 漢方の国際化

米国FDA(食品医薬品局)の治験薬使用許諾のもと、GCP(医薬品の臨床試験の実施の基準)にもとづいた臨床試験を米国において実施しています。現在、手術直後の腸管麻痺改善をターゲットとした、「TU-100(大建中湯)」の臨床薬理試験を実施中です。日本国内で大建中湯を使用し、また、研究をいただいている先生方と米国の先生方との情報交換を積極的に支援し、科学的な試験結果をもとにした漢方の国際化を進めていきます。

### 米国における漢方薬の臨床試験





シヤクヤク  
芍薬

## 漢方の育薬

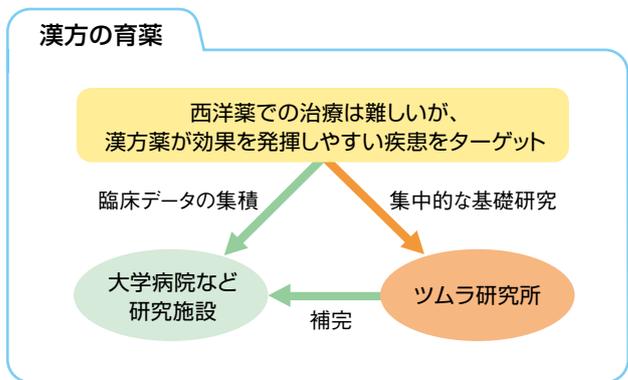
漢方の「育薬」とは、西洋薬で治療が難しい疾患の中で、漢方薬が特異的に効果を発揮する疾患に対して、その使用の科学的根拠（研究データ）を集積することです。現在、認知症の周辺症状に対して「ツムラ抑肝散」、上腹部不定愁訴および食欲増進ホルモンであるグレリンの分泌作用に関して「ツムラ六君子湯」、また、腸管の運動改善および血流改善を中心として「ツムラ大建中湯」の研究データの集積に

努めています。また、抑肝散は食事をする、着替える、歩くなどの日常の動きを低下させることなく、認知症の周辺症状を改善するという治療効果が新たに海外の著名な専門誌に掲載され、現在大変注目されています。（☞P.21-22 参照）



カクコン  
葛根

### 漢方の育薬



## COLUMN

### 育薬の成果～ 六君子湯のエビデンス

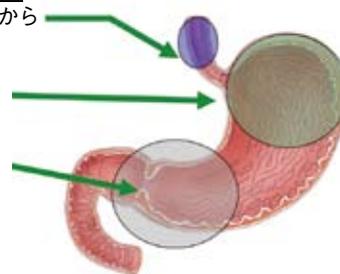
六君子湯は、FD\*1 や GERD\*2、NERD\*3 などに伴う上腹部不定愁訴に対して使用されています。食物の胃排出能を高める作用に加え、胃の貯留能を高める作用、さらにペプチドホルモンであるグレリンの分泌促進を介した食欲増進作用が認められ、注目されています。

六君子湯に関する当社の育薬の取り組みの成果として、2008年5月に開催された米国消化器病週間 (Digestive Disease Week: DDW 2008) では8演題、10月に開催された欧州消化器病週間 (UEGW2008) では4演題が発表されるとともに、消化器病領域のトップジャーナルである Gastroenterology 誌\*4 に論文が掲載されました。また、DDW2009 においても、六君子湯に関する演題が前年以上の12演題が採り上げられ、海外の専門家からも大変な関心が寄せられました。



六君子湯は、多彩な作用メカニズムをあわせもつことから、複雑な病態をもつ FD、GERD などの上部消化管異常の疾患に効果を示すものと考えられます。（複合成分から構成される漢方の特徴）

- ① 食道クリアランス改善  
(逆流した胃酸を食道から胃内に押し戻す作用)
- ② 胃貯留能改善
- ③ 胃排出能改善
- ④ グレリン分泌促進  
(食欲増進ホルモン)



米国消化器病週間 (DDW2008)

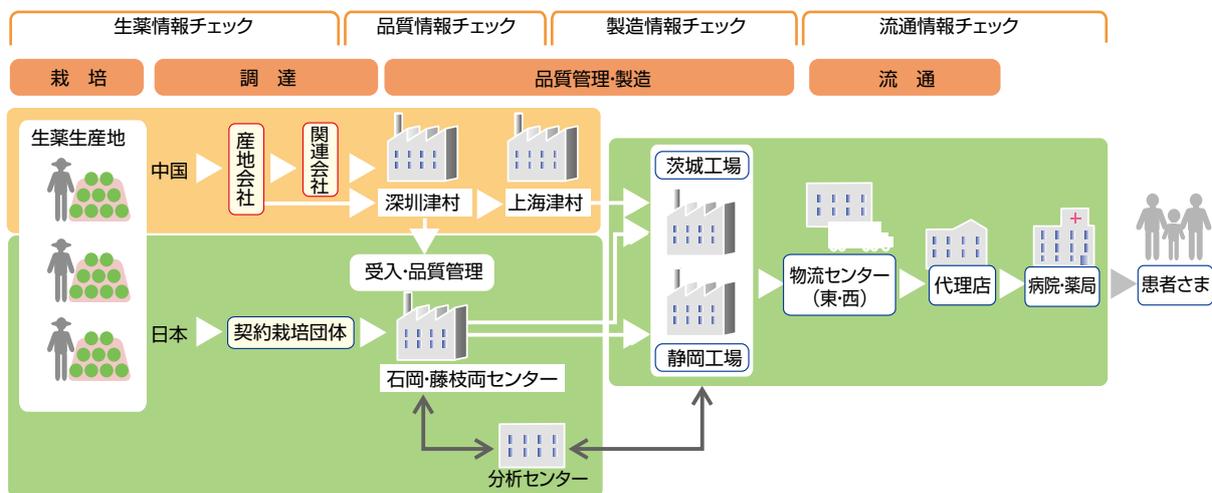
\* 1 FD : Functional Dyspepsia (機能的胃腸症)  
 \* 2 GERD : (胃食道逆流症)  
 \* 3 NERD : (内視鏡陰性 GERD / 非びらん性胃食道逆流症)  
 \* 4 Gastroenterology 誌 : 米国消化器病学会が発行する消化器病領域における最も権威のある医学雑誌

# 漢方製剤の安全・安心・安定供給

豊かな自然環境が育む生薬を、安全・安心な漢方製剤として患者さまのお手元にお届けするためにツムラが取り組んでいることをご紹介します。

## トレーサビリティ体制

漢方製剤の品質を維持するため、最も「川上」にあたる原料生薬の栽培段階から、製造・出荷、流通まで、一貫したトレーサビリティ体制を実現します。「川下」である全国の病院・医院、調剤薬局などに、患者さまの視点で医療用漢方製剤の適正使用と安全性情報の収集・提供を行っています。



## 栽培

### 品質の安定化・収量向上のために

長年にわたり、生薬の契約栽培を行い、安定調達・品質確保のために栽培地の育成を図ってきました。契約栽培では、栽培方法、使用農薬、乾燥調製方法が記載された生薬生産標準を作成し、それをもとに生産者を指導する体制を確立しています。肥料や農薬などの使用状況はデータベースで管理しています。

### 生物多様性の保全と持続可能な資源利用のために

薬用植物の野生資源量は世界的に減少傾向にあり、多くの植物種の絶滅が危惧されています。自然の恵みである生薬を原料とする当社にとって、良質な生薬の生産とそれを可能にする健全な生態系の保全は、持続可能な事業展開のために必要不可欠な取り組みです。生薬生産地

の生物多様性の維持と、持続可能な生薬採取を実現するため、乱獲による生態系破壊を避けるとともに、資源の安定確保や品質安定化、トレーサビリティ情報の明確化を目的として、原料生薬となる野生植物の栽培化や保護育成に取り組んでいます。

### 栽培化研究・保護育成

現在、中国においては野生品の採集に依存している生薬がいくつかあります。特に使用量の多い甘草、麻黄、大黃については、中国医薬保健品股份有限公司や研究機関と協力して栽培化を進め、その他の生薬についても、当社独自に栽培化研究を実施しています。さらに、絶滅危惧種を含む野生植物の調査・研究にかかわる国際的学術雑誌「植物研究雑誌」を80年間以上刊行し、遺伝資源の保護、植物学・生薬学の普及にも貢献しています。

## 調 達

### 安全な生薬の安定確保のために

医療用漢方製剤の需要拡大に対応するため、栽培への取り組みを進めています。

海外では、中国既存産地での栽培指導と管理体制の強化による長期栽培契約の拡大、ラオスでの生産栽培化にむけた現地法人の設立を進めています。ラオスでは、自社農場によるトレーサビリティを担保した大規模管理栽培を目指しており、現在、農地の借地権設定のための土地調査を実施しています。初期は、熱帯性生薬など数品目の生薬で栽培を開始し、栽培化研究を進めながら徐々に生産品目の拡大を図る予定です。

国内では、5ヵ所の栽培拠点の中でも大規模な機械化栽培による生産コスト削減が期待できる北海道での契約栽培面積を拡大する方針です。特に、交通インフラや保管に適した気候を備える夕張市に子会社として株式会社夕張ツムラを設立し、自社農場開設を計画しています。夕張ツムラは、このほかに生薬の生産・加工・保管拠点を設け、すでに千歳に保有する生薬の調製加工場と連携することで一層の効率化を図ります。これにより、雇用創出や地域経済の活性化への効果も期待されています。

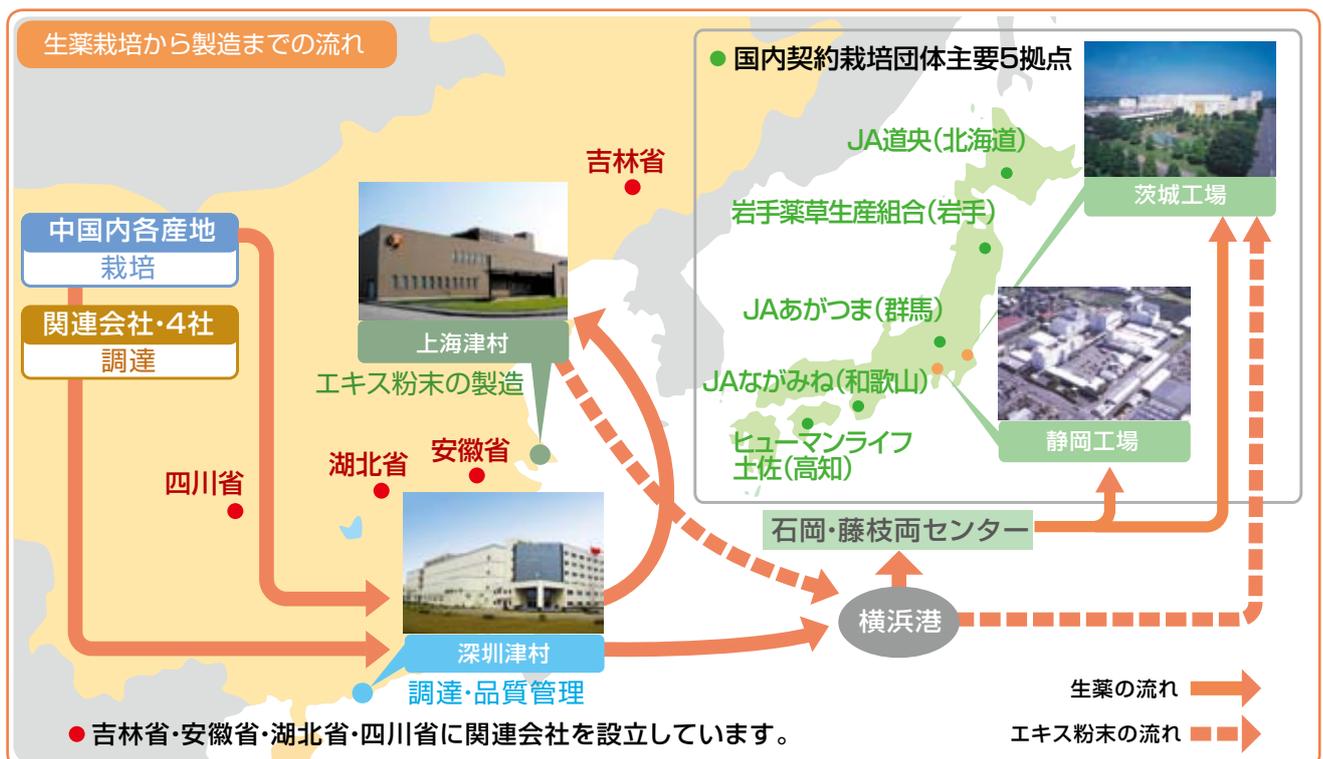
### COLUMN

#### 生薬と一緒に、信頼関係を育てます

当社の原料生薬の約80%は中国から輸入しています。中国の生産農家が栽培した原料生薬は各地の「産地会社」に集められ、直接または中国内の関連会社を通して深圳津村に納入されます。産地会社は原料生薬調達のほか、生産者への栽培指導という重要な役割も果たしています。この産地会社の皆様に安全・安心な原料生薬を安定確保するための当社の方針をご理解いただくため、2008年12月「ツムラ中国協力会」を実施しました。中国各地からの約100名の参加者全員が安全で安心な原料生薬の調達へむけ一丸となって取り組む熱意と決意を再確認しました。



ツムラ中国協力会



品質管理・製造

分析センターの設立

分析センターは、従来静岡・茨城両工場に分散していた残留農薬および微生物試験を一元化し、研究開発機能と統合する目的で、2008年10月に設置しました。分析センターは、安全・安心を患者さまに提供するとともに、今後の生産量増加への対応や低コスト体制を実現し、さらに新しい技術開発にも積極的に取り組み、当社製品の品質維持・向上に努める組織です。今後は当社グループの品質管理機能の中核として定量分析や理化学試験も統合し、さらには上海津村や深圳津村とも活発な技術交流を図ります。将来的には漢方・生薬製剤に関して、世界に誇れる品質評価技術を有する試験研究センターを目指しています。

生薬の品質・安全管理

漢方製剤は、天然物である生薬を原料として製造しますが、より安定した品質の製品を供給するためには、使用する生薬の品質管理が大変重要です。当社では品質管理として、日本薬局方などにもとづいた試験のほか、成分定量や残留農薬試験など、当社独自で定めた品質管理基準に準じて実施しています。深圳津村経由で納入された中国産生薬と石岡・藤枝両センターに納入された日本産生薬の品質試験を生薬品質管理部にて実施（残留農薬試験はそれぞれ深圳津村と分析センターで実施）し、合格した生薬のみが製造工場に供給されます。品質試験の際、残留農薬など安全性に関して疑義が生じた場合には、さらに選択性の高い機器などにより問

題がないか二重チェックし、その結果をもとに総合判定を行う体制をとっています。このように、生産品質管理部と分析センターの有機的なつながりにより、スピーディで安定した品質管理のもと、安全で安心な原料生薬を供給する体制を築いています。

VOICE

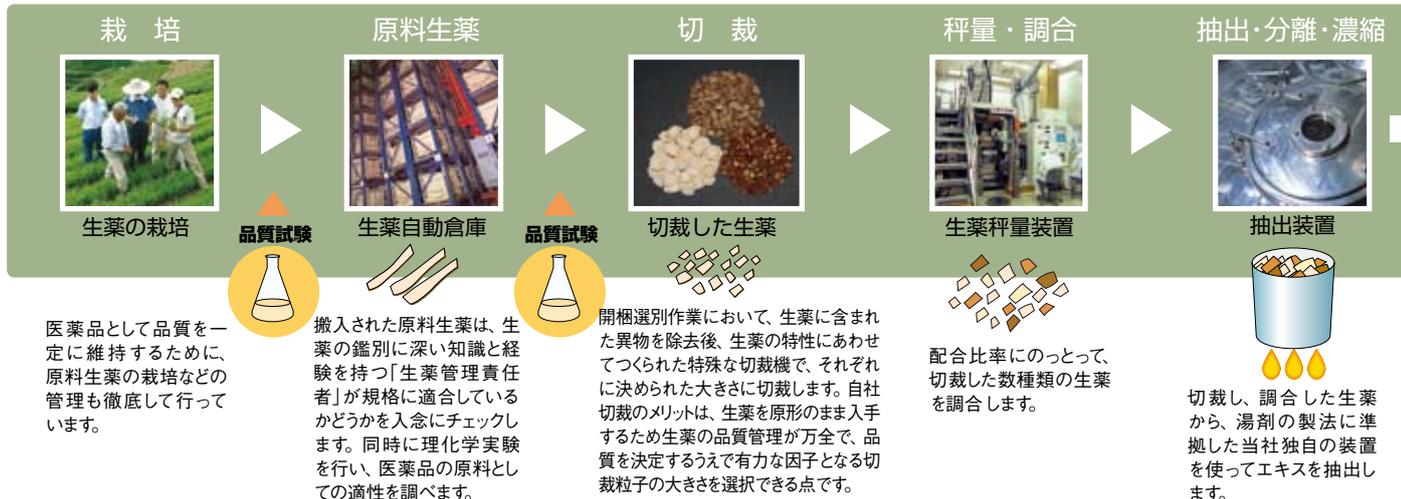


「分析センター」の役割

分析センター センター長  
竹田 秀一

近年、ギョーザ事件や産地偽装など品質にかかわるさまざまな問題が発生し、消費者の信頼を損ねる事態を招きました。このような背景のもと当社では、医療用漢方製剤をはじめとする各種製品の品質保証をさらに強化する目的で、分析センターを設置しました。特に天然物である生薬や漢方製剤の安全確保の観点から、残留農薬や微生物試験などをまず分析センターに統合しました。ツムラグループ内では、いつでも同じ方法、同じ結果が得られるように試験方法の整備と統一化を図り、当社製品を安心して服用いただけるよう努力しています。最新設備の導入や新しい試験方法にも取り組んでおり、患者さまのご期待に沿えるよう努めます。また「ツムラの品質＝分析センター」となるためには、人材の育成も欠かせません。品質の向上は優れたセンター員を養成することで、初めて達成されると考えています。

漢方製剤製造工程フロー図



## 製品の品質・安全管理

製品の品質と安全性については、公定書規格にもとづく試験法のほか、さまざまな手法を用いて保証しています。残留農薬・微生物などは、通常の試験に加え国内外の安全基準をベースとした当社独自の基準を設け、最先端の科学技術を応用した試験法の開発と適用に取り組んでいます。

## 原料生薬の残留農薬基準

高品質な原料生薬を確保するためには、生薬栽培時の病虫害や雑草を抑える目的で最小限の農薬を使用する必要がありますが、残留農薬による健康被害を起こさないよう厳重に管理することが重要です。当社では、国内で生薬の残留農薬基準を定める日本薬局方はもちろんのこと、海外の医薬品品質規格集であるヨーロッパ薬局方やアメリカ薬局方に記載されている農薬を含む計73種類について自主的な検査体制を確立し、2006年から生薬の全ロット検査を行っています。さらに、生薬栽培に使われた農薬を対象とした検査法を開発中であり、順次導入を予定しています。

生薬に関する残留農薬基準とツムラの基準		
基準	対象生薬	対象農薬
第15改正日本薬局方 (平成18年4月施行)	ニンジン、コウジン、センナなど 14生薬20品目 (生薬末6品目含む)	有機塩素系農薬2種 (総BHC、総DDT)
日本漢方生薬製剤協会 (日漢協)自主基準 (平成17年6月追加)	ニンジン、センナなど 13生薬	有機塩素系農薬2種 (総BHC、総DDT)
ツムラの基準	取り扱い全生薬	有機塩素系農薬29種*1 有機リン系農薬25種 ピレスロイド系農薬5種 その他農薬5種 ジチオカルバメート系農薬9種*2

\*1 総BHC、総DDTを含む  
\*2 一部生薬に適用

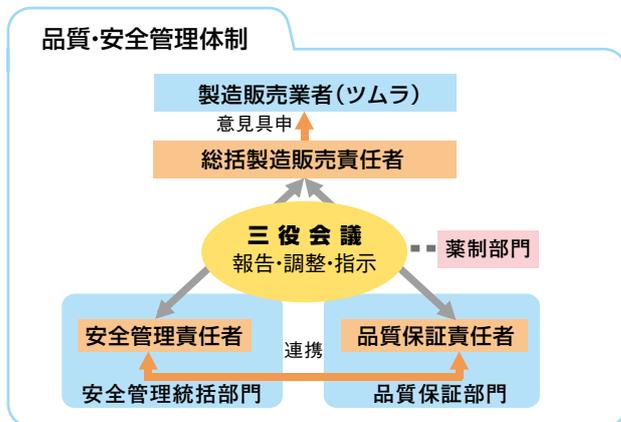
残留農薬などの品質試験  
(分析センター)



## 品質・安全管理体制

医薬品の製造販売業者として、高品質な医薬品の安定供給および製品の適正使用推進と安全確保のため、薬事法をはじめとした関連法令に適合する社内体制を構築し、円滑な運用を図っています。すなわち、品質管理および安全管理を統括する総括製造販売責任者を中心として、品質管理の基準(GQP)に関する業務を行う品質保証部門、製造販売後安全管理の基準(GVP)に関する業務を行う安全管理統括部門が三役会議などを通じて常に密接な連携を図るとともに、薬制部門が法的な側面からこれをサポートしています。

この体制によって、当社製品の品質を保証するとともに、製品の使用情報を収集・評価し、必要な措置を適切に講じて製造販売業者としての責務を果たしています。



## 流通

## 安心できる製品包装

流通過程において、包装箱に異物が混入することを防止するために、2006年6月より分包品標準包装の仕様変更を実施し、完全密封しています。また、2007年5月には、流通における製品名の判別性向上を目的として、包装箱の文字を大きく変更したほか、2008年5月には新バーコード表示を実施するなど、医薬品の取り違え事故防止やトレーサビリティの確保へ向けた改善を重ね、より良い製品の提供を目指しています。



新バーコード（RSSコード）表示に伴う包装の変更

## 物流センターでの取り組み

茨城工場内にあった物流拠点を2008年5月に埼玉県に移設、物流センターを東西2拠点体制で運営し災害時のリスク回避とお客様へのサービス向上を目指しています。工場からの入庫から運送会社への荷渡しまでの各工程で目視検品からハンディターミナル\*を使用した検品に変更し、物流品質の向上に取り組んでいます。同時にGMP（医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準）、JGSP（医薬品の供給と品質管理に関する実践規範）などの社内教育会を実施しています。また、配送は東西物流センターともに高品質、安定供給を行う医薬品専門配送業者に切り替えお客様へより良いサービスを提供しています。

\*ハンディターミナル：データを収集するための小型携帯端末

## お取引先さま、代理店への情報提供

医療用漢方製剤の品質・有効性・安全性並びに適正使用情報提供のため、お取引先さまへの説明会を定期的に行っています。また、お取引先さまが漢方医学について勉強できる支援サイトと学会などのトピックスを掲載したプロモーションツールをホームページにご用意しています。

## VOICE



## 医薬品卸物流のパートナーとして

株式会社メディセオ・バルタック  
ホールディング ロジスティクス本部  
東京物流センター長  
今井 讓 様

多品種かつ大量の商品を扱う物流センターでは、荷扱いの容易さが大きなポイントです。ツムラ様の元梱は、人が取り扱うのに丁度良い大きさ・重量であるとともに、箱も潰しやすい形状でリサイクル容易性に配慮されていると思います。また個装についても人の手が増えられればすぐに判別できるジッパー開封となっており、品名の難しい漢方薬についても、番号表示に加えて、番号別に色別表示されているなど、簡単に識別できる工夫がなされていて、取り扱いミスの防止に役立っています。

## VOICE



## 医薬品の輸送における配慮

ネットワーク・アライアンス株式会社  
代表取締役社長  
館 康太郎 様

当社は2008年6月からツムラ様の東西2カ所の物流拠点から全国各地のお届け先様への輸配送業務、工場から物流拠点への輸送を担当させていただいています。当社が運営する医薬品専用全国輸配送ネットワークにより、生命関連商品にふさわしい、高い輸送品質（壊さない、汚さない、確実に納品する、従って返品がない）で商品の安定供給に努めています。また、他の医薬品メーカー様の製品も合わせた共同輸配送をしており、高いトラック積載率や、帰り便の有効利用など、輸送効率向上を実現し、CO<sub>2</sub>の削減にも貢献しています。



代理店 MS 様用漢方教育支援サイト



代理店説明会

## MR（医薬情報担当者）の活動

MRは、医療機関などを訪問し、医療関係者に対して、医療用医薬品の品質・有効性・安全性並びに適正使用情報など、最新情報の提供・収集・伝達を行います。当社MRには、医療用漢方製剤のトップメーカーとしての知識だけでなく、医療の一端を担う者としての高い倫理観と、知識を正しく伝える技能も求められます。患者さまの苦痛を和らげることをMRの最大の喜びとし、漢方を通じて社会貢献するという使命感をもち日々活動しています。

### VOICE



ツムラ MRとして  
心掛けていること

東京支店 城南営業所  
加藤 亜衣

最近、先生から「抑肝散が認知症の周辺症状にとっても効いて、介護されているご家族だけでなく、患者さまご本人もとても喜んでいたよ」とお話をいただく機会が多くなりました。このような時は私自身もとても嬉しく、またやりがいを感じるのですが、その一方で、用法・用量や副作用に対しての質問も多いように思います。さらに多くの先生に漢方製剤を正しくご理解いただき、治療にお役立ていただけるよう、効果だけでなく副作用の情報提供も的確に行うように心がけています。

## お客様相談窓口

お客様相談窓口へ寄せられるお問い合わせは、ほかの薬との飲み合わせ、妊娠中・授乳中の服用や、どのような副作用があるのかなど、薬を服用する際の安全・安心に関するものが全体の25%となっています。これらの相談に対し、お客様相談窓口では、できる限り納得していただけるよう、平易な言葉でわかりやすく説明することを心がけ、安心して薬を服用いただけるよう努めています。

患者さまや医療関係者の皆様からは、さまざまな情報が寄せられます。これらの情報の中で、製品の安全にかかわる情報は、MR（医薬情報担当者）やお客様相談窓口を通じて、迅速に安全管理統括部門に伝達されます。情報を精査したうえ、法令や社内基準にのっとり、製品に関連がある場合は、医薬品医療機器総合機構を通じて厚生労働省へ報告され、最終的に広く一般に公開されます。

(P.29 参照)

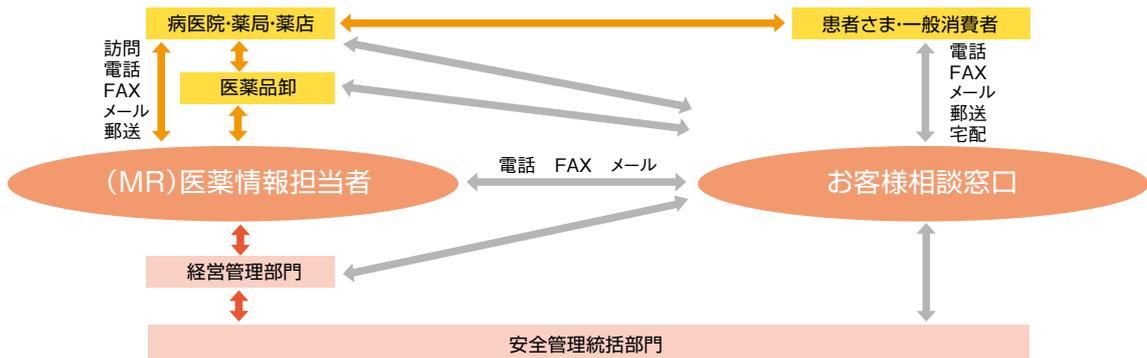
### お客様相談窓口へのご意見・お問い合わせ

お客様相談窓口ダイヤル：0120-329-930  
(医療関係者むけダイヤル：0120-329-970)

受付時間：平日 9:00～17:30  
(当社休業日を除く)

Eメールは当社ホームページよりお願いします  
[http://www.tsumura.co.jp/qa/q&a\\_index.htm](http://www.tsumura.co.jp/qa/q&a_index.htm)

### 製品の安全に関する情報伝達の流れ



# 低炭素社会への貢献

自然の恵みである生薬を扱うツムラの事業は、豊かな自然環境なくして成り立ちません。温室効果ガスの排出抑制をグループ全体の目標として共有し、低炭素社会の構築にむけた取り組みを推進します。

## これまでの取り組みとツムラ中期環境目標

生産部門では、より温室効果ガス排出量が少ない燃料への転換や、コジェネレーションシステム\*1の導入などに取り組んできました。オフィス部門では、本社移転をはじめ、支店・営業所でも省エネにつながるスモールオフィス化を順次進めています。

今後は生産量の増加に伴いエネルギー使用量の増加は避けられませんが、工場をはじめとした全ての事業所において、目標を掲げ温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいきます。

\*1 コジェネレーションシステム

電力エネルギーなどを得るために、エンジンを動かしたときに出る廃熱を利用して、蒸気や温水などの熱エネルギーを同時に得る省エネルギーシステム

2008年度 ツムラ全社環境目標

温室効果ガス排出量 1990年度比 19%削減



実績 44,900t-CO<sub>2</sub>

1990年度比 22%削減

2000年

茨城工場  
氷蓄熱システム導入



2003年

茨城工場  
コジェネレーションシステム導入



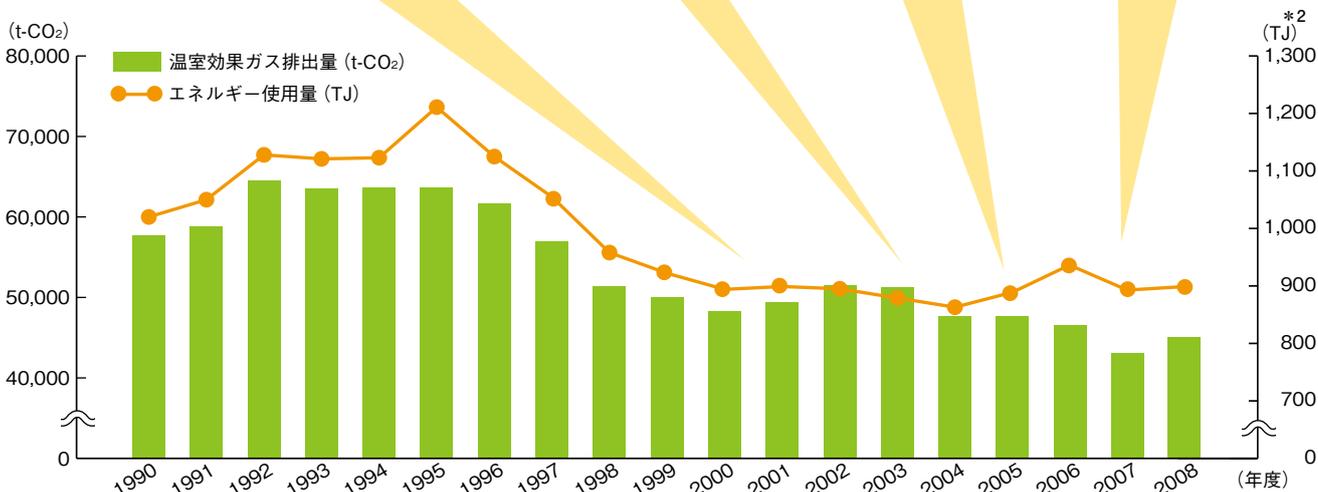
2005年

支店・営業所  
スモールオフィス化開始  
静岡工場  
ボイラーなど燃料転換開始



2007年

本社ビル  
移転



※ 対象はツムラ単体です

\* 2 TJ=1,000GJ

J (ジュール) : 国際単位系のエネルギーの単位

1J は 1N (ニュートン) の力が物体を 1m 動かすときのエネルギー

( P.39 参照 )

## ツムラ中期環境目標

### 温室効果ガス排出量の削減

2009年度からの3年間の平均を1990年度比19%削減する  
(2009年度～2011年度 総排出量 140,257t 以下に抑制する)

### 目標達成にむけて

生産部門からオフィス部門まで全社一丸となって取り組みます

#### 生産部門 (静岡・茨城両工場のほか石岡・藤枝センター、研究地区含む)

- ・ 高効率な設備の導入、更新によるさらなる省エネ化を進めます

#### 営業車

- ・ ガソリン使用量を2009年度から3年間の合計で、2008年度比1台あたり6%削減する
- ・ 2009年度からハイブリッドカーを順次導入します
- ・ 車内の整理整頓を行い、エコドライブを実践します

#### オフィス部門 (本社、支店・営業所)

電力使用量を2009年度から3年間の合計で、2008年度比6%削減する

- ・ こまめな消灯を心がけ、室温は「夏は28℃」「冬は20℃」にします
- ・ 退社時にはパソコンの電源プラグを抜きます
- ・ 紙資料削減と両面Nアップ印刷・白黒コピーを徹底します
- ・ 2フロア以内の移動でエレベータを使用しません



室温設定ルール (本社)



退社時は電源プラグを抜く

### 今後の取り組み

生産部門だけでなく、営業車やオフィスの省エネを実施し、「温室効果ガス排出量の削減」を全社共通の取り組みとして推進していきます。当社の事業基盤は豊かな自然環境であることを全社員が認識し、それぞれの取り組みによる効果は少なくとも「積み重ね」と「継続的な改善」が重要であるとの考えのもと、省エネ活動や生薬栽培地の自然環境保護（「土佐ツムラの森」(P.27 参照)）を通じて低炭素社会の実現に貢献します。



土佐ツムラの森 CO<sub>2</sub> 吸収証書(2008年度)

# 漢方を通じた社会との コミュニケーション

正しく漢方を知っていただくことは、ツムラの社会的責任と考えています。  
医療関係者ばかりではなく一般の皆様方にも漢方を知っていただく  
さまざまな機会を設けています。

## 漢方医学確立へむけて

近年、日本における疾病構造の変化は著しく、医療現場においては、西洋医学のみでは治療が困難なケースが増えており、漢方医学の教育・研究・臨床の推進がますます望まれています。当社では、大学医学部教育に対する漢方医学関連の情報提供活動、医師・薬剤師むけのセミナー実施、一般の皆様方を対象とした漢方関連の情報提供活動を通じて、漢方医学の普及啓発を行っています。

## 漢方医学の教育と臨床

大学医学部・医科大学における漢方医学教育の充実に向けて積極的な情報提供活動を実施しています。現在までに、全国 80 の大学医学部・医科大学全てにおいて漢方医学の講義が導入されました。漢方外来は 69 の大学病院に開設され、漢方医学に対する理解は急速に広がっています。

漢方医学が日本の医学のひとつとして確立され、医療関係者の方々が漢方医学について西洋医学と同等の知識・技能を持ち、患者さまにとってより良い医療の提供のために、西洋医学・漢方医学、各々単独での診療もしくは併用による治療を選択・実行できるように、今後も引き続き情報提供活動を推進していきます。その情報提供活動の一環として、大学教育関係者の先生方をお招きして、漢方医学教育をテーマに漢方メディカルシンポジウムを年 1 回開催しています。



漢方メディカル シンポジウム 2009

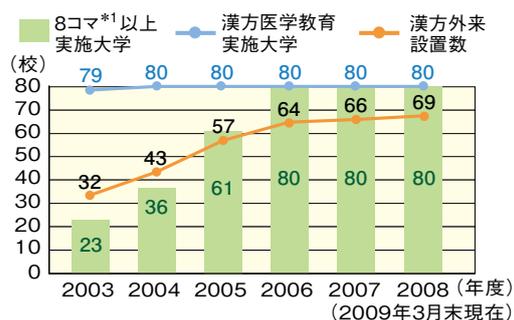
## 漢方医学普及啓発活動

医療関係者の皆様にも、漢方医学を体系的に学べる場を提供するため、各種セミナーを開催しています。参加される受講者の習熟度を統一するため、段階別に 20 名程度の少人数で開催することで、わかりやすく受講いただけるよう工夫しています。

漢方医学的診断・治療などを体系的に学んだことのない先生方に基本的な知識や技能を学んでいただく入門セミナー、診断方法の実技など実践的な漢方医学を学んでいただくステップアップセミナーはじめ、研修医を指導される先生方を対象とする臨床研修指定病院指導医セミナーや、大学勤務医対象セミナー、女性外来担当女性医師対象セミナーなどを開催しています。

このような各種セミナーを継続して実施することにより、漢方医学と西洋医学の融合による世界に類のない最高の医療提供の実現を支援しています。

### 漢方医学教育と漢方外来設置の推移 JACO



### 2008年度 セミナー・講習会開催実績 JACO

セミナー種別	実績		
	件数	人数	
医学 卒後 漢方 セミナー	入門セミナー	119	2,267
	入門セミナーⅡ	62	1,292
	ステップアップセミナー	77	1,461
	小計	258	5,020
臨床研修指定病院指導医セミナー	28	663	
大学講師育成セミナー	11	187	
女性外来担当女医セミナー	6	117	
薬剤師むけセミナー	20	2,331	



ツムラ漢方記念館



館内：自然光を採り入れた中央吹き抜け空間



シンボル展示：原料の生薬標本

## ツムラ漢方記念館リニューアルオープン

ツムラ漢方記念館は、薬草見本園を併設し多くのステークホルダーの皆様へ「漢方」のことをわかりやすく、親しみやすくお伝えできるコミュニケーションの場となることを目指しています。2008年4月にツムラ創業115周年メモリアル事業のひとつとしてリニューアルオープンして以来、医療関係者の皆様を中心に3,000名を超えるお客様をお迎えしました。特に医療系大学の学生の皆様が多く「漢方を楽しみながら学ぶことができた」などのご意見が寄せられています。また、昨年は、財団法人日本産業デザイン振興会が主催する2008年度グッドデザイン賞（分類：公共施設・建物）を受賞しました。当記念館は、人々の健康と医療に貢献することを目指し、これからも展示内容を充実し広く社会に情報提供する活動を継続していきます。



生薬体験コーナー



グッドデザイン賞 表彰状

### ツムラ漢方記念館

開館時間：10時～17時（入館は16時まで）

お問い合わせ：029-889-2167（漢方記念館直通）

見学の際は事前にご予約ください

〒300-1192 茨城県稲敷郡阿見町吉原 3586

## 一般の皆様方への漢方啓発活動

漢方の正しい情報をひとりでも多くの困っている患者さまに伝えることを目的として、一般の皆様方むけセミナーに協賛しています。

漢方薬は女性特有の疾患や症状に用いられることが多く、特に不定愁訴や冷え症などには有効な場合があります。また女性の漢方への興味・関心は非常に高いものがあり、その期待に応える責任があると考えています。

### ● 女性のための漢方セミナー

2001年度からスタートし、主に全国7大都市にて開催しています。2008年度は「更年期」をテーマに地元の医師が講演を行い、合計7,000名を超える参加をいただきました。タレントさんをまじえたトークショーなど各地とも趣向を凝らした演出で、健康と漢方に対する正しい知識を楽しみながら学ぶことができたと好評でした。このセミナーをきっかけに病院で漢方治療をはじめたという参加者の声も多く寄せられました。

2009年度は20～30代を対象とした内容にリニューアルし、下表の日程にて行います。



女性のための漢方セミナー

### 2009年度開催予定

場所	日時
仙台	5/28(木)
名古屋	9/ 8(火)
札幌	10/ 1(木)
福岡	10/15(木)
広島	11/ 6(金)
大阪	11/10(火)
東京	3/ 7(日)

### ● ウーマンヘルスフォーラム

主に「働く女性」を応援することをテーマとして「日経ウーマン」「日経ヘルス」など3誌が主催するイベントに協賛しました。黒川清先生（内閣特別顧問、政策研究大学院大学教授）による基調講演「女性が健康で活躍する社会を作るために」にはじまり、セミナー・パネルディスカッションでは天野恵子先生（野中東皓会静風荘病院特別顧問）や木下優子先生（日本大学医学部内科学系統合和漢医薬学分野医局長）らにより、働く女性にとって漢方が必要であり、健康に役立つことなどを熱く語っていただきました。

20～30代の女性会社員を中心とする約500名の参加者からは「漢方に対するイメージや認識が大きく変わった」というご意見を多数いただきました。



ウーマンヘルスフォーラム

当社が協賛するイベントやセミナーの情報  
<http://www.tsumura.co.jp/event/index.htm>

## 「認知症」へのサポートを通して社会に貢献

2008年、厚生労働省は「認知症の医療と生活の質を高める緊急プロジェクト」を設置し、「たとえ認知症になっても安心して生活できる社会を早期に構築する」ことを目標に掲げた施策をはじめました。

一般の皆様方の「認知症」に対する関心は急速に高まっています。現在、社会問題といわれる背景には、患者数が急増していること、介護負担への「不安」などとともに、正しい知識が十分に理解されていないことも挙げられています。

当社では単なる自社製品の宣伝活動とは一線を画した「認知症」の啓発活動と、「認知症」と向きあう地域環境をサポートする取り組みを行っています。

## 認知症フォーラム

2007年度からNHK、NHK厚生文化事業団、読売新聞社が主催する「認知症フォーラム」に協賛しています。フォーラムでは、地域密着取材をもとにしたVTRとシンポジウム形式で認知症の基礎知識や最新医療情報、介護支援の取り組みなどが紹介されます。

2008年度は5会場で3,100名を超える一般の皆様方が来場し、地元医師や介護スタッフ代表者、患者の会代表者などの話に熱心に耳を傾けていました。今まで全国13会場での合計応募者数は約15,000名、抽選で選ばれた合計参加者数は約7,500名にもおよび、認知症に対する関心の高さがうかがわれました。

また当日の内容は新聞紙面やテレビ番組に採録され、より多くの皆様方に届けられています。



認知症フォーラム（宮崎会場）

## 認知症フォーラム.com

「認知症フォーラム」の様子が高品質な動画のほか、認知症に関するさまざまな情報を提供するウェブサイト「認知症フォーラム.com」にも協賛しています。

2007年12月から公開が始まり、現在では1ヵ月間に約15,000名の方がアクセスし、閲覧されるページ数は延べ60,000ページを超えるまでになりました。

監修を国立長寿医療センター包括診療部長 遠藤英俊先生、名古屋大学医学部附属病院老年科 大西丈二先生にお願いし、「予防」「介護」「医療」の3つの観点から構成された便利でわかりやすいサイトになっています。



認知症フォーラム.com  
<http://www.ninchisho-forum.com/>



## BPSD サポートエリアプロジェクト

2008年より「NPO法人 地域認知症サポートブリッジ」の後援を受け、認知症の周辺症状（BPSD）の診断・治療・啓発活動を推進する医師およびチーム育成研修会を実施しています。現在、9地区（北海道・青森・群馬・西東京・福井・岐阜・兵庫・長崎・宮崎）にて展開中です。

研修会の目的はあくまでもBPSDケアの啓発で、このようなチームを支援することにより、患者さまやそのご家族が安心して暮らせる社会環境の整備に貢献しています。

## 認知症とは

ごはんを食べたことを覚えていない、自分のいる場所がどこなのかわからない…。ふつうの人なら当たり前前にわかっていることが、わからなくなる状態を認知症といいます。認識したり、記憶したり、判断したりする力が障害を受け、社会生活に支障をきたす状態のことです。

認知症という言葉自体は病名ではなく、特有の症状を示す状態を総称する言葉と考えてください。認知症を引き起こす病気は、細かく分類すればじつはたくさんあります。ただし、圧倒的に多いのは、アルツハイマー病と脳血管障害の2つで、この両者が混合している場合もあります。ほかに、レビー小体病（脳の神経細胞に異常なたんぱく質が蓄積する病気）、ピック病（脳の前頭葉と側頭葉に強い萎縮がみられる病気）なども、認知症の原因となります。

## 認知症の症状：中核症状と周辺症状

認知症は心の病気ではありません。脳が病的に変化することによって、何かを記憶したり、場所や人などを認識したり、物事を判断、推測するといった知的機能が低下する、体の病気です。これらの症状は認知症の「中核症状」と呼ばれています。徘徊や妄想、幻覚などの「周辺症状」と呼ばれる精神症状は、この中核症状が原因で起こります。

記憶したり、認知したりする能力はたしかに低下しますが、喜怒哀楽などの感情が失われるわけではありません。「ばけてしまえば本人は楽だ」ということはないのです。認知症の人は、周りに迷惑をかけていることや、自分がどう見られているかをしっかり感じとっています。まず家族などの周りの人が、認知症に対する正しい知識をもって接することが大切です。

【認知症フォーラム.com (P.21 参照) より一部抜粋】



## 認知症治療と漢方

近年、認知症の周辺症状を改善してくれる薬として、漢方薬が使われるようになりました。主に処方されているのは抑肝散<sup>ヨクカンサン</sup>といい、興奮しやすい、イライラ、怒りっぽい、眠れないといった症状を改善する作用があります。漢方医学では「肝のたかぶりは怒りや興奮などの精神神経症状をもたらす」と考えられており、それを抑えることから抑肝散と名づけられました。もともと子どもの夜泣きや疳（かん）の虫を治すための漢方薬でしたが、現代では年齢を問わず、さまざまな精神神経症状に用いられます。

抑肝散には「日常動作を抑え込みすぎることなく周辺症状を軽減する」という治療効果が報告されています。場合によっては西洋薬の量を減らしたり、副作用による転倒を抑えたりすることも可能です。長く薬を飲み続けなければならない認知症の患者さまには、非常に適した薬といえるでしょう。なお「抑肝散」のほかにも「釣藤散<sup>チョウトウサン</sup>」「抑肝散加陳皮半夏<sup>ヨクカンサンカチンピハンゲ</sup>」「黄连解毒湯<sup>オウレンゲドクトウ</sup>」「当帰芍薬散<sup>トウキシャクヤクサン</sup>」など多くの漢方薬が、周辺症状の改善に用いられています。認知症の人全てが同じ薬を飲むわけではなく、それぞれの体質によって薬の種類が異なるというのも漢方薬の特徴です。

【Kampo view (P.30 参照) より一部抜粋 監修 小阪 憲司 先生】

## VOICE



### 認知症のより良い治療のために漢方薬が果たす役割

国立長寿医療センター  
包括診療部長  
遠藤 英俊 先生

自分ひとりで1日に診られる患者は10人、20人かもしれません。しかし、ウェブサイトを通して認知症周辺症状に悩む、より多くの方々の負担軽減につなげていきたい。このウェブサイトが社会貢献のためのツールになって欲しい、そう願って「認知症フォーラム.com」の制作に取り組んでいます。

漢方医学（漢方薬）は、これまで西洋医学を学んできた医師が治療にあたる中で、西洋医学だけでは埋められない部分を補っていると思います。また、これから日本は高齢化社会を迎えますが、漢方薬は、副作用が少なく高齢者に優しい薬だと考えています。現在のところ、医療用漢方製剤として保険適用される処方数は決められており、増えることはありません。しかし、各処方の効果や適用が拡大できるような正当な評価、エビデンスが増えれば、漢方医学はますます発展していくと思います。

ツムラは、数多くの漢方薬メーカーの中でも医療用漢方製剤市場でのシェアが高く、歴史ある会社でもあります。このような企業であるツムラには、漢方医学発展のために努力していく義務があると感じています。今後も医師と連携しながら新しい切り口で研究を進め、エビデンスが増えていくと良いと思います。



当社およびその役職員は、国の内外を問わず、人権を尊重するとともに、すべての法令、行動規範およびその精神を遵守し、高い倫理観をもって行動します。

2009年4月改正

## ツムラ行動憲章

当社は、「生命の尊厳」を第一義とし、「自然と健康を科学する」という経営理念のもと、日本の伝統に培われた「漢方医学」と「西洋医学」との科学的裏付けをもった融合により、人々の健康と医療に貢献します。

そのため、当社およびその役職員は、次の行動原則に基づき、国の内外を問わず、人権を尊重するとともに、すべての法令、行動規範およびその精神を遵守し、高い倫理観をもって行動します。

### 1. 高品質な漢方薬の供給により、医療に貢献します

漢方薬と原料生薬の研究に取り組み、有効性、安全性に優れた高品質な漢方薬を安定的に供給することにより医療に貢献します。同時に、漢方薬の研究を通じ医療コスト軽減に寄与します。

### 2. 適正な研究・開発活動および的確な製品情報の提供を行います

臨床研究は、医療機関の協力を得て、被験者の人権を尊重し、安全確保に留意し、かつ科学的厳正さをもって遂行します。非臨床試験として必要な動物実験は動物福祉に十分配慮して行います。

漢方薬の適正使用を確保するため、品質・安全性・有効性に関して、国内外の科学的に裏付けられた情報を的確に提供するとともに、製造販売後の安全性情報の収集・分析評価とその伝達を迅速に行います。

### 3. 公正で自由な競争を通じ、適正な取引と流通を行います

公正で自由な競争を通じ、自社製品の適正な取引と流通を行います。また、医療関係者をはじめ、政治、行政等との健全かつ正常な関係を保ちます。

### 4. 情報には適正な保護と厳重な管理を施します

個人情報や顧客情報、秘密情報の適正な保護に十分配慮し、万全な対策を行います。

### 5. 積極的かつ公正な情報開示を行い、開かれた会社を創造します

当社を取り巻くステークホルダーとのコミュニケーションを広く行い、企業情報を積極的かつ公正に開示します。

### 6. 環境との調和を図り、良き企業市民として社会貢献活動を積極的に行います

環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、社会および当社の持続的発展に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動します。

良き企業市民として、積極的に地域社会の発展に貢献できるよう活動します。

### 7. 従業員の多様性を尊重し、安全で働きがいのある職場環境を実現します

従業員の人格や個性などの多様性を尊重するとともに、安全で働きがいのある職場環境を実現します。また、従業員の倫理観の高揚と資質の向上を図ります。

### 8. 反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で臨みます

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体に対しては、毅然とした態度で臨みます。

### 9. 海外においては、各国の法令や文化を遵守・尊重し、現地の発展に貢献します

国際的な事業活動においては、現地の法律や行動規範の遵守はもとより、現地の文化や慣習を尊重し、現地の発展に貢献する企業経営を行います。

### 10. 本憲章の精神の実現のため、経営トップ自ら率先垂範し、企業倫理の徹底を図ります

経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、自社およびグループ企業に徹底するとともに、取引先に周知させます。また、社内外の声を把握し、実効ある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。

本憲章に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努めます。また、社会への迅速かつ確かな情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正な処分を行います。



新任管理職研修におけるコンプライアンス教育

## コンプライアンス体制

倫理観の醸成と法令遵守を目的として、「ツムラコンプライアンス・プログラム」を制定し、その内容をまとめたコンプライアンス・ガイドブックを、役職員に配布し、「ツムラ行動憲章」にのっとり行動をすることを基本としてきました。このたび、家庭用品事業の譲渡などにより、当社を取り巻く環境が大きく変化したことを受け、「ツムラ行動憲章」を改正し、2009年4月1日から施行しています。当社でのコンプライアンス活動状況は、定期的に取締役会に報告しています。

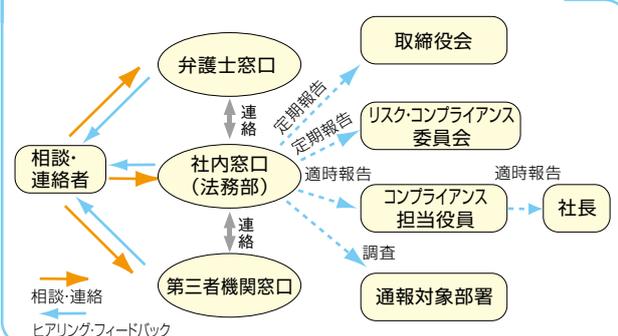
## コンプライアンス教育

役職員を対象にした啓発セミナーのほかに、新任管理職研修や新入社員研修の階層別教育などに取り組み、2008年度は合計30回のコンプライアンス教育を実施しました。また、社内の昇格試験では、コンプライアンス関連の問題が出題され、一人ひとりの従業員が業務目標に加えコンプライアンス行動目標を設定するなど、人事制度にコンプライアンスの要素を組み入れ、意識の向上を図っています。

## ツムラグループ ホットライン

職場で解決できないコンプライアンスに関する問題の相談窓口として「ツムラグループ ホットライン」を設置しています。2009年4月1日からホットラインの使いやすさの向上を図るため、第三者機関窓口の運用を開始しました。現在は社内外に3つの窓口（法務部、弁護士、第三者機関）を設置し、国内グループ企業の役職員が利用できます。また、匿名での相談に応じるほか、安心して利用できるよう、相談者のプライバシーを保護し、相談者に対する不利益な取り扱いを禁止しています。2008年度のホットラインの利用実績は10件でした。

### ツムラグループ ホットライン 情報伝達の流れ



## プロモーションコードおよび公正競争規約の遵守

「ツムラ医療用医薬品プロモーションコード」（「医療用コード」）および「医療用医薬品製造販売業公正競争規約」（公競規）の遵守を徹底しています。

社内体制として、本社と各支店にそれぞれの担当者を置き、「接待関連行為等に関する社内ガイドライン」や公競規の遵守状況の検証を行うとともに、全てのプロモーション用資材の審査を行うことなどにより、適正なMR活動を推進しています。そして、その結果は最終的に経営陣に報告されます。2008年度のプロモーション用資材の審査件数は5,044件でした。また、「医療用コード」および「接待関連行為等に関する社内ガイドライン」の改正を行い、関係部署に周知徹底しました。

社内教育においては導入教育、継続教育、e-ラーニングなどに「医療用コード」や公競規に関するものを継続的に取り入れるとともに、毎年11月の「医療用コード理解促進月間」には、医療用コード委員長による従業員への啓発並びに全取締役に対する説明会などを実施し再徹底を図っています。

## 公正で透明な取引

購買の業務においては、公正で透明な取引を行うことによって、お取引先様と信頼関係を構築し、パートナーシップを高めていくことが大切であると考えています。購買部は、お取引先様とより良い関係をつくり上げることを目指し、「購買取引行動指針」と「購買管理規定」のもと、誠実な購買活動を推進します。

## 動物実験に関する方針

医薬品の有効性、安全性を保証するためには、動物実験は必要不可欠です。当社では動物実験に関する内規を制定し、全ての動物実験について、動物実験審査会が代替法の有無、適正な動物数、苦痛に対する配慮（3Rs\*）を中心に審議し、機関の長が承認したうえで適正に実施しています。さらに動物実験実施状況や施設運営が内規に適合しているか毎年自己点検を実施しています。

また、動物実験にかかわる一人ひとりが実験動物に対して感謝の気持ちを持ち続けるよう、研究所敷地内に「実験動物慰霊碑」を建立し、毎年慰霊祭を実施しています。

\* 3Rs : Replacement, Reduction, Refinement

# コーポレート・ガバナンス

企業の持続的な成長・発展、社会的責任の遂行に対する強い使命感のもと、コーポレート・ガバナンス体制の強化を経営上の重要な課題のひとつと位置づけています。

## コーポレート・ガバナンス

「自然と健康を科学する」という経営理念のもと、今後も持続的に成長・発展し、社会的責任を果たすためにはコーポレート・ガバナンス体制の強化が必要であると認識しており、経営上の重要な課題のひとつと位置づけています。

特に、企業マネジメントの透明性と充実を図るため、内部統制システムの充実、効果的・効率的な運用を図り、より質の高い企業経営を行うことを目指しています。

また、近年企業が直面するリスクも大きく複雑になり、広範なリスク管理やそれらのリスクへの適切な対応が求められていることから、2009年4月にCSR推進室を新設しました。引き続き、多面的にコーポレート・ガバナンスの充実を図っていきます。

## 内部統制

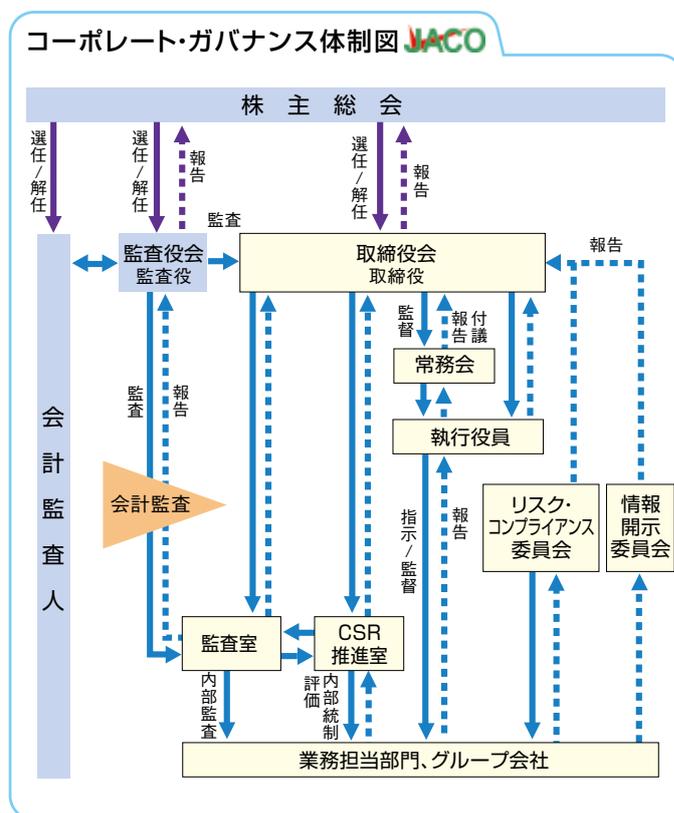
2006年度からJ-SOX法対応のため内部統制構築プロジェクトをスタートさせました。

当社の内部統制の取り組みは、J-SOX法対応に加えて「業務の有効性と効率性の追求」および「関連法規の遵守に活用すること」を目的としています。そのために「業務の見える化」「業務の標準化」また「業務の集約化」とともにビジネスプロセス自体を「明確化」することで、ミスや不正を排除するための仕組みを構築・実践しています。

2009年度は、新設したCSR推進室にてより強い企業体質の構築を目指し、2年目の内部統制の有効性評価を実施しています。



内部統制説明会



## 知的財産保護

### ● 知的財産権の権利侵害回避

特許権・意匠権・商標権などについては、他者の権利を侵害しないように調査、権利侵害回避あるいは許諾を受けて適切に処理しています。

### ● 発明報奨制度：「出願・登録補償」と「実績補償」

特許法第35条に適合した社内規程を定めて、従業員から会社への権利の譲渡を適切に行っています。これに応じて、「出願補償金」「登録補償金」を対象者に支給し（2008年度は17名）、さらに売上高によっては「実績補償金」を支給しています。今後、社会情勢の変化を踏まえ、必要に応じて実績補償金算定方法などを見直していきます。

## リスクマネジメント

### ● リスクマネジメントサイクルの実践

2008年に実施したリスクマネジメントプロジェクト（2007年10月～2008年3月）により当社グループにおけるリスクの洗い出し、評価、優先順位づけを実施しました。

リスクの洗い出しにおいては、法規制・経営・事業・財務・技術・人的資本の6つのカテゴリー別に合計約2,300のリスクが抽出され、この抽出されたリスクの中から各部門の責任者が中心となって、重要リスクを絞込み、優先順位づけを実施しました。

このプロジェクトにより優先順位づけされた重要なリスクについて、2009年度に新設したCSR推進室が中心となり、対策とそのスケジュールを立案し、各部門およびグループ各社と連携し、リスク対策を実施します。その結果の評価および監査室の監査結果をもとに、対応策の改善を図り、継続的な一連のPDCAサイクルを実施することによりリスクマネジメントを実行します。

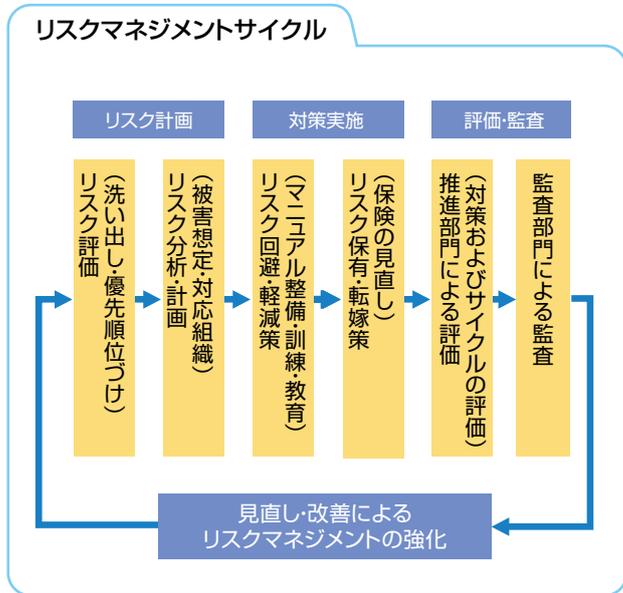
### ● リスクファイナンスの改善

リスクファイナンス\*の一環として中国子会社を中心に、保険プログラムの改善を実施し、保険の妥当性を検証するとともに、転嫁可能なリスクに対しては、効率を考慮した保険の付保を行いました。

\*リスクファイナンス：リスクが顕在化してしまったときに備えるための資金的な対策

### ● 新型インフルエンザ対策の実行

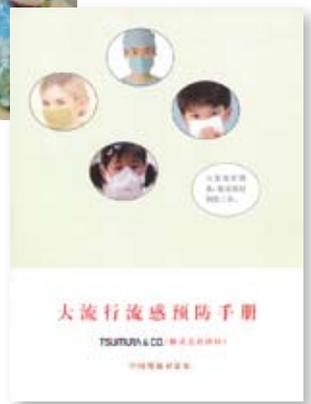
リスクマネジメントプロジェクトによって洗い出し、評価、優先順位づけを行ったリスクの中で最優先のリスクとして新型インフルエンザを選択し、その対策プロジェクト(2008年9月～11月)を設置しました。内容としては当社グループにおける新型インフルエンザ発生による人的損害や事業における損害を最小限にいとめ、経営資産を守ることを目的として対策計画を作成し、発生時における感染予防の方法、事業継続の検討、緊急時の連絡体制や罹患状況の確認方法を確立しました。また感染予防のためのマスクや消毒用アルコール、うがい薬などを全国65カ所の事業所内に備蓄するとともに、従業員に対する新型インフルエンザの知識や対策についての教育を行い、職員およびその家族に対して感染予防のマスク約28万枚を配布しました。加えて中国グループ会社従業員に対して教育・啓発のための小冊子を配布しました。



リスク・コンプライアンス委員会



新型インフルエンザ備蓄品



新型インフルエンザ対応冊子(中国語)

## 社会とツムラ

良き企業市民として、  
社会との共生を目的とした  
さまざまな社会貢献活動、  
支援などを積極的に行っています。

### CSRの原点

執行役員 CSR推進室長  
藤 康範



生命関連企業の当社にとって、最大の社会的責任は当社の漢方製剤を、必要とする全ての医療現場とご家庭に安定的に供給すること、即ち本業を全うすることにより、皆様の健康に貢献することだと考えています。

2009年4月に新設したCSR推進室の役回りの三本柱が、「リスク管理」、「内部統制」と「環境管理」という一見堅苦しいものになっているのも、こうした我々の考え方を反映しています。

さらに自然の恵みである生薬の栽培を起点とした循環型事業サイクルの確立には、我々を取り巻く自然環境や地域社会との共生が何よりも大切だと考えています。これが、人にも自然にも優しい、ツムラのCSRの原点です。

サンシュユ  
山茱萸

### 社会とともに～社会貢献活動

#### 「土佐ツムラの森」

生薬栽培地の自然環境保護および地域の方々との交流を目的に、2008年6月、高知県協働の森づくり事業に、県・越知町・生薬栽培団体であるヒューマンライフ土佐とパートナーズ協定を締結しました。対象エリアを「土佐ツムラの森」と名づけ、生薬栽培に重要な水資源の保全につながる森林再生活動を実施するとともに、地域交流として越知中学校の生徒を対象に出前授業や植樹・間伐体験を行いました。今後も生薬栽培地の自然を守るお手伝いや地域の方々との信頼関係を築く活動を展開していきます。



間伐体験



出前授業

#### VOICE



#### 「土佐ツムラの森」事業

高知県 産業振興推進部  
地域づくり支援課 地域支援企画員  
小野田 勝 様

企業活動を通じて地域の経済および環境の両面から多大な貢献をいただき心より感謝しています。高知県では、生薬生産地とツムラ様との心のつながりや信頼関係を今後も大切にしていきたいという思いから、2008年度からツムラ様の協賛により「土佐ツムラの森」事業を進めています。この事業では、間伐などの森林保全を行うとともに、中学生も交えた体験活動を行っています。確かな信頼関係は、トレーサビリティの原点でもあります。高知県行政としましても少しでもお手伝いができるように取り組んでいきます。

## 災害復興支援

2008年5月に発生した中国四川大地震被災地の復興支援のため、中国赤十字社に100万円、四川赤十字社に50万円、合計150万円(約2,250万円)の義援金を寄附しました。上海津村、深圳津村からもそれぞれ10万円の義援金を寄附しました。グループ会社の役員へ募金を呼びかけ、総額3,707,702円が集まりました。この募金は中国赤十字社に寄附するとともに、一部、深圳津村の従業員で、実家の家屋に被害を受けた方々に社長が直接渡しました。



四川大地震義援金贈呈

## NPO・NGO との協働・支援

財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWF Japan)に法人会員として20年以上支援を行っていることから、同財団より感謝状を授与されました。そのほか、社団法人青少年交流協会、財団法人オイスカの活動を支援しています。

茨城工場では、製造用水として霞ヶ浦の水を大量に使用しており、霞ヶ浦周辺の環境保全活動として、2004年度からアサザプロジェクトに参加しています。2008年度は40名の従業員が参加し、これまでに延べ200名以上が参加しました。

本社や一部支店・営業所では、エコキャップ推進ネットワークやエコキャップ推進協会を通じて発展途上国の子供たちにポリオなどのワクチンを届ける「エコキャップ運動」に参加しています。2008年度は約16,000個、ポリオワクチンおよそ20名分に相当するキャップを回収しました。



アサザプロジェクトへの参加(茨城工場)



エコキャップ運動(本社)



WWFからの感謝状

## リウマチ医療への貢献

1993度から16年間にわたり、「ツムラ・骨関節臨床医学賞\*」を設け、リウマチ性疾患の抑制に大きく寄与した臨床医学研究を顕彰してきました。この活動に対して厚生労働大臣から感謝状を贈呈されました。

\*2008年度で終了しています

## 事業所周辺の清掃活動

当社グループでは事業所周辺の美化活動に取り組んでいます。静岡工場では2005年2月「藤枝市まち美化里親制度」に企業としてはじめて登録し、近隣の公園全域の環境美化活動に参加しています。

### 2008年度 事業所周辺の清掃活動実績 JACO

事業所名	実施回数(回)	参加人数(名)
静岡工場	16	160
茨城工場	4	43
石岡センター	9	42
ロジテムツムラ	1	46
深圳津村	1	113



清掃活動(深圳津村)

## 募金・寄付活動

### 2008年度 募金・寄付活動 JACO

静岡工場	「藤枝市・もったいない運動」	108,887円
	「赤い羽根共同募金」	67,202円
	緑の募金	127,624円
	「1本のジュースがボランティアを応援」募金	90,603円
	社会福祉法人ハルモニア	新聞紙
茨城工場	「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金	27,000円
	社会福祉協議会「愛の募金」	1,300円
	赤い羽根共同募金	10,000円
	日本赤十字茨城支部	30,000円
	社会福祉協議会	10,000円
石岡センター	「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金	3,910円
ロジテムツムラ	「藤枝市・もったいない運動」	80,650円
	藤枝市社会福祉協議会	古切手
	新入学児童への黄色い横断バグ贈呈	10,000円

## 今後の展開・目標

当社の事業は自然の恵みによって成り立つからこそ、責任をもって自然と共生していかなければなりません。生薬栽培地や事業所周辺の自然環境を守る取り組みを行うことを基本に、良き企業市民としてさまざまな社会貢献活動を推進していきたいと考えています。

## 当社の製品を安心してお使いいただけるように、 お客様の声を大切にし、漢方や製品についての 情報提供を積極的に行っています。

### お客様とのコミュニケーションに関する方針

お客様相談窓口は、誠実な対応、客観的な事実、最新データにもとづく情報提供、医薬品の適正使用の支援を方針としています。

1995年の開設以来14年間で20万件以上の相談をお寄せいただきました。2004年度からWebメールによる相談受付、2007年度からフリーダイヤルの導入を進めるなど、ステークホルダーの皆様との積極的なコミュニケーションを図り、お寄せいただいた数々の情報の有意義な活用を目指しています。

### 2008年度の取り組み お客様相談窓口

フリーダイヤル化に伴う相談件数の増加により、電話がつながりにくくなっていた状況を改善するた

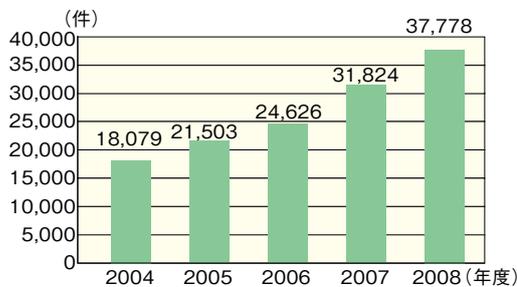
め、2008年度は電話回線や、本社の窓口担当者の増員および大阪サテライト窓口の開設などの人員体制の見直しを実施しました。その結果、つながりにくい状況は解消されました。

また、新しい相談対応システムの運用などによりほとんどの相談に対して、1回の電話で解決できる体制を整えています。

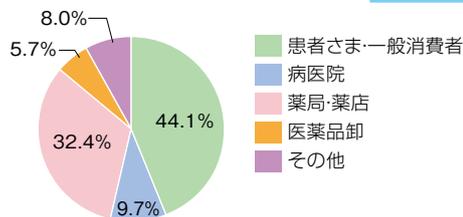
### 顧客満足 (CS) 会議

お客様からいただいた相談を企業活動で積極的に活用するため、2006年度から社長を議長、関係役員をメンバーとする「顧客満足 (CS) 会議」を設置し、CSにかかわる重要な事項を定期的に検討しています。2008年度は、お客様とのコミュニケーションに関する社内伝達・対応ルートの確立、医療用漢方製剤の包装、OTC (一般用製剤) の安全性確保のための活動などについて検討し、問題の改善を行いました。

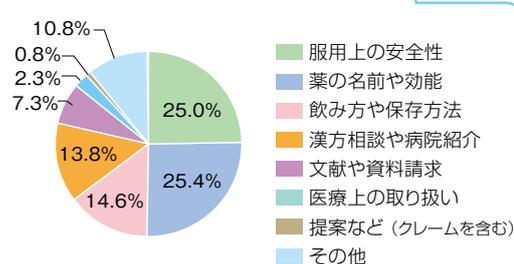
お客様相談窓口 相談件数 JACO



2008年度 相談者の内訳 JACO



2008年度 相談内容の内訳 JACO



お客様の声を反映した製品の改善例



薬剤管理における識別性の向上、患者さまの服薬コンプライアンス向上を目的として処方名および処方番号の字体を読みやすく変更しました。

### 見学・インターンシップなどの受け入れ

漢方記念館を中心に見学や、インターンシップなどの受け入れを行いました。当社や漢方について、より理解していただく機会となっています。

2008年度 見学・インターンシップなどの受け入れ状況 JACO

事業所名	見学		インターンシップ		職場体験	
	(件)	(名)	(件)	(名)	(件)	(名)
本社	3	14	0	0	0	0
漢方記念館・茨城工場	178	2,697	1	5	1	7
静岡工場	23	166	1	3	1	1
研究所 (分析センター含む)	* 6	* 136	0	0	0	0
石岡センター	6	15	1	2	0	0
ロジテムツムラ	1	4	0	0	0	0
上海津村	22	186	2	3	0	0
深圳津村	23	260	1	17	0	0

\*漢方記念館と研究所をあわせて見学した場合には、漢方記念館の集計となっています。

## 漢方に関する多様な情報提供

近年、漢方薬を服用してみたい、漢方のことをもっと知りたいという一般の皆様方のニーズは確実に増えています。当社は漢方のリーディングカンパニーとして、その科学的解明と啓発活動に力を注いできました。医薬品の有効性や安全性、活用法など、正しい知識・情報を理解していただくためにも、ホームページや協賛サイトによる漢方情報の提供をはじめ、お客様相談窓口における医薬品の個別相談、漢方セミナー開催などさまざまな機会を設けて漢方の啓発に努めています。

### ● パブリシティ活動

より多くの人々に正しい漢方の情報を伝えるために、新聞・雑誌記者や医療ライターなどに対して、漢方の最新情報を定期的に提供するプレスセミナーの後援を行っています。

女性が興味をもつ疾患やテーマを中心とした女性誌医療記者懇話会を年3回、トピックスや話題の医師による漢方医学フォーラムを年4回開催しています。

### ● Web

コーポレートサイトとしてツムラホームページと漢方スクエアを運営しています。ツムラホームページでは漢方情報を求めて訪問する方から、IR情報、リクルート情報などさまざまな要望に応えるために、わかりやすいサイトデザインとコンテンツを用意しています。また医療関係者むけにはツムラ漢方スク

### Kampo view



<http://www.kampo-view.com/>  
医療の現場で処方されている漢方薬を、医師の取材を交えながらわかりやすく解説しています

### 漢方のお医者さん探し



<http://www.gokinjo.co.jp/kampo/>  
全国の漢方に詳しい医療機関やお医者さんを検索することができます

エアを開設し、最新の研究成果や講演会研究会情報から、実際に漢方の使用方法が学べるメニューまで、充実した内容を提供しています。

サテライトサイトとして kampo view、漢方のお医者さん探し、認知症フォーラム.com ( [P.21-22 参照](#) ) に協賛しています。

[ツムラホームページ](http://www.tsumura.co.jp/)  
<http://www.tsumura.co.jp/>

[ツムラ漢方スクエア](http://www.tsumura.co.jp/password/)  
<http://www.tsumura.co.jp/password/>

## 今後の展開・目標

今後は、お客様と情報のやり取りを行ううえで、ますます大切になってきている Web コミュニケーションの向上を図ります。より高いユーザビリティを目指し、相談窓口、外部協賛サイトなどを融合させたホームページとして新たに見直しを行っていきたいと考えています。当社医薬品の適正な使用と普及のため、そして皆様の安心と信頼の獲得にむけて、さまざまな情報を積極的に提供していきます。

## VOICE

漢方を正しく  
理解していただくために



コーポレート・コミュニケーション室  
広報グループ  
大島 智昭

広報グループでは、一般の皆様方の「漢方」の啓発にむけてさまざまな活動に取り組んでいます。テレビ・新聞などの広告、企業・協賛サイトでの情報発信、漢方セミナー・講習会などの広告宣伝活動が主な内容となります。

またそれ以上に、メディア(媒体、記者)にむけた活動に力を入れています。企業と一般の皆様方との間にあるメディアの方々に、何よりも「漢方」に触れていただき、「漢方」を正しく理解いただくことが私たちの役目と考えています。

広報活動がメディアを通じた一般の皆様方へのプレゼンテーションと考えるならば、記者の方々に理解されてこそ、さまざまな「活きた情報」をお届けできるのです。定期的なプレスセミナーの開催や、ツムラ漢方記念館・工場などの見学会を実施して、漢方を、ツムラをより身近に感じていただくことが重要と考えています。

国内外での積極的な IR 活動を通じて、企業価値の向上と、株主・投資家の皆様から信頼される企業を目指します。

### 経営の基本方針

当社は、「自然と健康を科学する」という経営理念のもと、日本の伝統に培われた漢方医学を科学的裏づけのもとに西洋医学と融合することにより、人々の健康のため世界で類のない最高の医療提供に貢献することを活動目標に掲げています。

この目標を実現するため、「漢方・生薬」への重点化と集中化を進め、漢方メーカーであることの独自性を最大限に活かし、医療の分野で確固とした地位を築いていくことを目標としています。

### 配当政策

2008 年度期末の 1 株あたりの配当金は 17 円とし、年間配当金は 34 円と前期比 11 円増額となっています。2009 年度は年間配当金を前期比 6 円増額し、40 円と予想しています。株主様への還元については、毎期の連結業績、配当性向上などを総合的に勘案し、増配を基調に安定配当を行うことを基本としています。

### SRI 調査機関などへ積極的な情報提供

株式会社インテグレックス、株式会社グッドバンカーや気候変動に関連する企業情報を収集・公表するカーボンディスクロージャープロジェクトなど、第三者調査機関からのアンケートに対しては積極的かつ誠実な情報の開示協力を行っています。また普段から調査機関と Face to Face でのコミュニケーション機会を増やすよう心がけています。

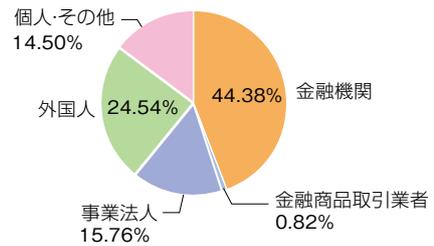
### SRI ファンド関係者とのコミュニケーション

当社の漢方を中心とした事業と CSR の取り組みが評価され、いくつかの SRI\*ファンドに組み入れられています。評価のポイントとしては、高齢化という社会問題に対する前むきな取り組み、安全な原材料の確保、ファミリーフレンドリーな人事施策などがあげられています。SRI ファンドの関係者に対して漢方記念館や茨城工場の見学会を開催し、生薬に関する当社の取り組みや製剤の品質管理について実際に見学していただいています。また、SRI ファンド関係者に対する事業説明会も実施しています。

### 配当推移 JACO



### 所有者別株式分布状況 JACO



(2009年3月末日現在)



SRI ファンド関係者に対する事業説明会

\* SRI (社会的責任投資)

従来の財務分析による投資基準に加え、社会・倫理・環境などの側面において社会的責任を果たしているかどうかを投資基準とする投資行動。社会的責任を果たしている企業ほど長期的・持続的な発展を見込める、という考え方が背景になっています

## 株主総会・IR 決算説明会

IR 活動の一環として、機関投資家やアナリストの方々を対象とした「決算説明会」を年2回実施し、毎回100名を超える方々にご参加いただいています。説明会では、社長をはじめとして役員が経営戦略や決算の概況について直接説明し、質疑応答も活発に行われています。さらに、IR 担当者との個別ミーティングや役員とのスモールグループ・ミーティングなどを通じて、投資家様とのより良いコミュニケーションに努めています。投資家様のご意見などは、役員や当該部門にフィードバックし、社外の声を経営に活かしていくようにしています。

また、毎年6月に行われる定時株主総会では、個人投資家の方々にも当社の活動内容をより分かりやすく伝えるため、総会会場における事業報告に映像も含めた視覚的補足を行っています。



決算説明会

## 海外 IR 活動

海外投資家の方々とのコミュニケーションの重要性は高まっています。役員を中心として欧州・北米・アジアの主要都市の機関投資家の方々を定期的に訪問し、漢方ビジネスなどについて直接説明する機会をつくっています。

## 株主様アンケートの実施

株主の皆様を対象に、株主様アンケートを実施し、約1割にあたる978名の株主の皆様からご回答をいただきました。株主の皆様からの声を重視し、「ツムラ web サイトの充実」や「報告書の内容充実」など、IR 活動のさらなる改善に努めていきます。

## 情報公開

### ● インターネット・ホームページ

フェア・タイムリーディスクロージャー（適時適正開示）の観点から、適時適切な情報開示に努めています。情報開示のツールとして、インターネット・ホームページも積極的に活用しています。ホームページには、開示した重要事項などの英訳文も速やかに掲載し、海外投資家の方々に対する情報発信にも積極的に取り組んでいます。

### ● アニュアルレポート

海外の投資家の方々には漢方というビジネスを正しく理解していただくために、「What is Kampo?」というページを設け、漢方についてポイントをわかりやすく解説しています。

### ● 中間・通期報告書

当社の活動内容などをわかりやすく伝えるコミュニケーションツールとして、年2回、株主の皆様にお送りしています。



アニュアルレポート



第73期中間報告書

## 今後の展開・目標

常にフェア・タイムリーディスクロージャーを意識し、日本国内および海外の投資家・株主の皆様との積極的なコミュニケーションを図り、当社の正しい姿を伝え続けることで、信頼関係を築いていきたいと考えています。

## 自ら企業価値を高められる人材の育成と誇りを持って積極的に仕事に取り組める職場環境を作ります。

### 社長方針説明会

2008年12月から翌年1月にかけて、全国11ヵ所において社長方針説明会を行いました。社長が従業員全員に直接語りかけるこの説明会は、現場に軸足を置くという社長の経営に対する姿勢のあらわれです。さまざまな施策を実施して収益を確実に上げられる企業になってきたこと、会社の進むべき方向が明確に示されていること、そして現在進められている施策がどのような目的で行われているかなど、多くの内容が説明されました。



社長方針説明会懇談会

### 人事理念

#### 人事理念

経営理念のもと、自立した組織人を育成し、  
「やりがい」を持って  
目標のために力を発揮できる環境を整え、  
活力溢れる企業風土の醸成を図る

人事理念にもとづいて、人事制度や運用の改善、および企業風土・職場風土づくりを推進しています。

### 公正な評価と処遇

半期ごとに定めた目標に対してプロセスと成果を評価する「PAT 評価」と、当該等級における従業員の職能を分析して位置づけを明確にする「職能審査」の2つの評定を実施しています。評定の理解を推進するために、2006年度から評定者研修を実施しており、2009年4月現在392名が受講しています。

人事制度の正しい理解を促進するために、「人事制度(TAPS)ガイドブック」を全従業員に配布しています。

### 人権尊重

ツムラ行動憲章において「国の内外を問わず、人権を尊重するとともに、全ての法令、行動規範およびその精神を遵守し、高い倫理観をもって行動します」と宣言しています。また、国際的な立場に立った人権への取り組みを進めるための基本姿勢として、世界人権宣言の精神を尊重し、労働における基本的な基準を示したILO(国際労働機構)の中核的国際労働基準を遵守した取り組みを進めています。

● **人権侵害の防止**：男女雇用機会均等法および厚生労働大臣の指針などにもとづき、事業主が配慮すべき事項に対応しています。就業規則に懲戒規定を定め、ハラスメントを許さないということを明確にルール化しています。また、人権侵害についての基礎知識や対応方法などについての説明会を実施しています。

● **職場での差別の禁止**：「ツムラ コンプライアンスガイドブック」において、雇用形態や、国籍、年齢、性別などの属性で差別を行ってはならず、特に管理職は職場で差別にあたるがあれば、これを無視せず改善しなければならないと明記しています。

● **児童労働の禁止**：「ツムラ コンプライアンスガイドブック」において、児童労働の禁止を明記しています。取引先などで法令違反を発見した場合は、取引の停止を含めた注意喚起をするとともに、別の取引先の検討も行うよう記載しています。

### 従業員相談窓口

従業員がいきいきと働きつづけられるように、気軽に相談できる社内外の相談窓口を設けています。健康応援プログラムを除き、契約・派遣社員を含む全ての従業員が利用可能です。

#### 従業員相談窓口一覧とその機能

窓 口	主な相談事項
ツムラグループ ホットライン	社内・社外 コンプライアンス違反
「犯罪」「迷惑行為」相談	社内 犯罪・迷惑行為
人事労務相談	社内 ハラスメント
KSSライン	社内 健康・介護・悩み事など
エンゼルライン	社内 妊娠・出産・育児
メンタルヘルス相談	産業医 メンタルヘルス
健康相談	産業医 健康
健康応援プログラム	社外 健康・介護・メンタルヘルスなど
健保組合メンタルヘルス相談	社外 メンタルヘルス

## 採用における取り組み

個性を尊重した人物本位の採用を実施しています。採用にあたっては、採用イベントへの参加や大学での説明会などを中心とした活動を行うとともに、当社ホームページで企業活動や仕事の内容などをわかりやすく説明しています。2008年度には、現場の一線で働いている従業員が仕事の内容を説明する「オープンセミナー」を、東京に加えて新たに大阪でも開催し、学生の皆様に当社や仕事についての理解を深めていただけるよう活動しています。



採用情報  
<http://www.tsumura.co.jp/recruit/index.htm>

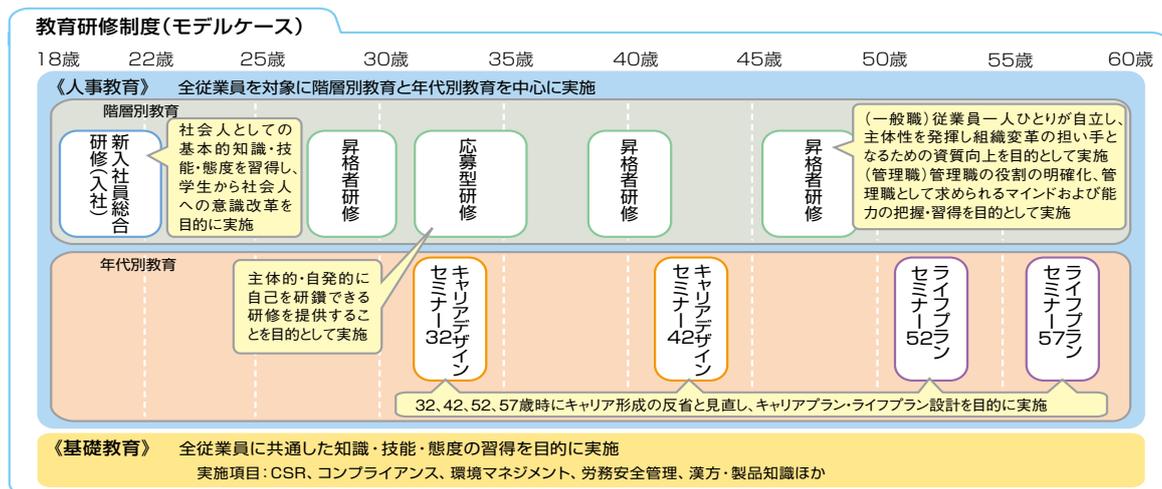
## 障がい者雇用

障がい者の方の採用については、1年を通して継続的かつ積極的に実施しています。また、障がい者の方の個性と能力が生かされるよう、ヒアリングや面談を通して、より働きやすい職場環境を提供していきたいと考えています。



## 教育研修方針と制度

社会環境の変化に機敏に対応し、自ら決断・実行し高い成果を実現する人材が求められています。当社では、教育のミッションを「自立型組織人を育成する」とし、主体性と自己理解を基本に、若い世代からキャリアを考えることを重視した教育を体系化しています。



## 雇用状況

従業員の多様性を尊重し、安全で働きがいのある職場環境を実現していきたいと考えています。また、定年後の再雇用や、育児、介護、配偶者の転勤などさまざまな事情でやむなく退職した従業員に、当社でもう一度働く機会と場を提供することを目的としたカムバックプログラムなどの制度を取り入れています。

2008年度末において、定年後再雇用制度によって12名、カムバックプログラムによって2名が就業しています。

### 雇用に関する実績 JACO

従業員数 (単位:名)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
単体	2,316	2,362	2,156	2,172	2,205
連結	2,763	2,759	2,750	2,773	2,631

組合員と非組合員数(単体) (単位:名)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
組合員	1,642	1,641	1,478	1,458	1,460
非組合員	692	721	678	714	745

従業員・新卒採用者数(単体) (単位:名)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
新卒採用	42	29	23	30	56
(内女性)	(21)	(13)	(6)	(14)	(29)

平均勤続年数(単体) (単位:年)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
平均勤続年数	16.1	16.8	17.4	17.9	18.4

雇用形態別社員数(単体) (単位:名)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
正社員 (嘱託社員を含む)	2,316	2,362	2,156	2,172	2,205
契約社員	-	286	278	286	329
派遣社員	89	90	89	117	113

離職率(単体) (単位:%)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
離職率	2.7	2.2	9.7*	2.4	1.7

\*ツムラ ライフサイエンス分社化による

### 福利厚生

全国の社員が、公平感をもって同じように福利厚生サービスを受けられる環境づくりをしています。社員の生活の根幹をなすもの、ニーズの高いものとして「住」の部分、特に借上社宅制度に力を入れています。

また、福利厚生提供会社と提携をすることにより、社員とその家族は、全国のさまざまな宿泊施設利用などの福利厚生サービスが受けられます。また、育児休業・介護休業・骨髄ドナー休暇などの制度を整えています。

### ワークライフバランスの推進

従業員の健康増進と、ワークライフバランスにもとづいたゆとりある生活の一層の推進を目的として、例年6、7、8、11月に休暇取得促進月間を設定するとともに、リフレッシュ休暇として連続3日以上 of 計画的な長期有給休暇の取得を推奨しています。また、週2回のノー残業デー、本社では時間外入退館ルールなどにより時間外労働の削減を推進しています。



子供参観日（本社）

### 労働組合との関係

#### 人事労務委員会 基本指針

「誇れる会社」を創る  
活力溢れる企業風土の醸成  
自立した組織人の育成

ユニオンショップ制を採用しており、毎月1回定期的に経営層と労働組合間で意見交換を行う「人事労務委員会」を設置しています。委員会は労使でメンバー構成されており、経営理念・人事理念にもとづいて人事労務諸問題を検討し、企業を取り巻く環境変化に対応した制度改革、制度設計の検討を進めることを目的としています。委員会のもとでは6つのワーキングチームが編成され活動しています。

- ① 人事制度検討チーム
- ② 処遇の適正化検討チーム
- ③ 労働時間管理チーム
- ④ 「誇れる会社」推進チーム
- ⑤ 再雇用制度検討チーム
- ⑥ 労働安全衛生体制検討チーム



「誇れる会社」ミーティング

#### 次世代育成支援行動計画(第2期:2007年4月1日~2010年3月31日)と実績 JACO

計 画	実 績(2007年度・2008年度累計)
<目標1> 計画期間内に、育児休業の取得状況を次の水準以上にする 男性従業員…3名以上取得すること 女性従業員…取得率を90%以上とすること	● 男性従業員:3名取得 ● 女性従業員:95.7%取得
<目標2> 所定労働時間を超えて労働させない対象者の範囲について未就学児をもつ従業員まで拡大し、制度の社内周知を進める	● 対象者の範囲を小学校3年生の子をもつ従業員に拡大
<目標3> 介護のための休業制度を拡大し、制度の社内周知を進める	● 介護休業に失効有給休暇を利用できるよう制度改革を行い、周知
<目標4> 休暇取得を1人平均年間10日以上とする	● 2007年度:11.7日、2008年度:11.7日取得(組合員平均)
<目標5> 子供参観日の実施	● 本社、茨城工場、研究所で実施
<目標6> 育児休業者との相互連絡に関する仕組みづくりを行う	● 育児休業者復帰支援プログラムwiwiwの導入
<目標7> 妊娠中の健康管理にかかわる環境の充実	● 母性健康管理指導事項連絡カード利用推進 ● 妊婦健診(母子健康法の保健指導または健康診査)の有給休暇(月に1日)の導入 ● 妊娠中の希望時期からの産前休暇(無給)付与の導入

## 労働安全衛生方針

「安全は、全てに優先する」を基本姿勢として、安全衛生管理規程、安全衛生管理基準を制定し、安全衛生管理を行っています。また、安全衛生相互調査を行い、部門間のレベルアップを図っています。法令では従業員50名以上の事業所に衛生委員会の設置が義務づけられていますが、法の定めを超えて全支店に衛生委員会の設置と産業医および衛生管理者の選任を行っています。全国の衛生委員会の管理レベル向上を目指し、その代表者を集めた「衛生推進会議」を年2回開催しています。

## 労働災害防止活動

静岡・茨城両工場、石岡・藤枝両センターでは、労災ゼロ、交通事故ゼロおよび心身の健康づくりを目指し、労働安全衛生の向上を図っています。



## 2008年度の取り組み

### ● 茨城工場 OSHMS 認定取得

茨城工場では、中央労働災害防止協会の労働安全衛生マネジメントシステム規格であるOSHMSを医薬品業界で初めて認定取得しました(2008年7月15日認定、8月26日授与)。認定取得することで、労働災害撲滅のため全従業員が積極的に安全衛生活動に取り組んでいます。



OSHMS 認定取得 (茨城工場)



### ● 5S 活動

生産にかかわる各職場では、5S活動\*を推進しています。「社員の自主性の向上」「良好なチームワークづくり」「リーダーシップ養成」など人づくりを基本として、業務の改善活動を着実に推進できる組織体質を確立することに繋げていきます。また活動の活性化により、安全衛生の向上、品質不具合流出の未然防止、業務の効率化が期待できます。

\*5S活動:整理、整頓、清掃、清潔、躰の5項目のSを頭文字とした略語

### ● 安全衛生委員会・安全衛生パトロール

安全衛生委員会を月1回開催し、また安全衛生パトロールを実施し改善を行っています。

### ● リスクアセスメント

リスクアセスメント活動を推進し、改善の実施によりリスクを低減することで、労働災害の撲滅に取り組んでいます。

### ● KYT(危険予知トレーニング)

KYTを実施し、危険性を再認識することで事故や災害を未然に防いでいます。

### ● 健康管理

メンタルヘルスケアの一環として「心の健康診断」実施、「VDT作業調査」にもとづく「VDT健康診断」を全社で実施しました。また、新型インフルエンザ対策を含めた観点から、全従業員を対象にインフルエンザ予防接種を行いました。

### ● 救急救命講習

AED(自動体外式心室除細動器)の正しい使用方法、心肺蘇生法などの救命技能取得のため、救命講習を実施しています。



救命講習(本社)

## 環境とツムラ

「自然と健康を科学する」という経営理念のもと、「環境基本理念」「環境基本方針」を制定し、中期および年度ごとの目標を掲げて、継続的な改善につなげます。

### ツムラ環境基本理念

(2000年10月制定)

ツムラは、自然と健康を科学する企業として、地球環境の保全と人々の豊かなくらしのため、環境との調和を考えた企業活動を推進します。

### ツムラ環境基本方針

(2000年10月制定)

#### 1. 環境保全への取り組み

かけがえない地球をまもることが重要課題であると認識し、環境との調和を考えた企業活動を推進します。

#### 2. 環境マネジメントシステムの構築と改善

環境マネジメントシステムを構築し、取り組むべき環境目標を設定・実施・評価するとともに自主的監査を行い、継続的に改善するよう努めます。

#### 3. 環境負荷の低減

環境保全のため、企業活動の様々な場面で省資源・省エネルギー・リサイクル・廃棄物削減など環境負荷の低減に取り組みます。

#### 4. 環境に配慮した製商品・技術の開発

製商品の研究開発から廃棄に至るライフサイクルの各段階において、環境負荷の低減に配慮したモノづくりを行い、資源・エネルギーを効率的に使用する技術の開発に取り組みます。

#### 5. 環境関連法規制の遵守

環境関連の法規制や、協定及び業界の自主基準などの要求事項を遵守し、環境保全活動の向上を推進します。

#### 6. 環境教育・環境意識の向上

全従業員が環境理念・方針に基づき、自ら責任をもって継続的に環境保全を遂行できるよう環境教育・啓発活動を推進します。

#### 7. 情報開示への取り組み

環境への取り組み内容を可能な限り情報開示するとともに、製商品の環境に関わる情報についても必要に応じて提供します。

#### 8. 社会貢献活動への参画

企業として個人として自主的に環境保全に取り組み、社会貢献活動に参画していきます。

## 2004～2008年度 主要な環境パフォーマンス指標の推移

報告対象期間		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	集計範囲	本報告書の掲載頁
総エネルギー投入量[GJ]		862,624	888,971	936,031	898,730	899,501		P.39・42・45
物質投入量	生薬[t]	5,553	5,674	5,880	6,221	6,365	*4	P.42
	容器包装資材[t]	4,270	4,555	3,441	3,870	4,408		P.42
水資源投入量[t]		891,375	899,175	977,732	985,739	978,140	*5	P.40・42・47
化学物質投入量	アセトニトリル[t]	2.8	4.1	3.6	3.8	4.2		P.40・42・46
グリーン購入率[%]		75	78	81	80	84		P.46
医薬品エキス顆粒生産量[t]		4,425	4,800	5,052	5,521	6,353	*6	P.42
温室効果ガス <sup>*1</sup> 排出量[t-CO <sub>2</sub> ]		47,600	47,700	46,600	43,200	44,900		P.39・42・45
廃棄物	廃棄物総排出量[t]	11,460	12,897	14,918	15,318	17,139	*7	P.41・42・46
	最終処分量[t]	30	32	19	2	1		
	再資源化率[%]	98.9	99.0	99.4	99.8	99.8		
総排水量[t]		783,916	784,528	894,140	907,732	889,108	*5	P.40・42・47
【温室効果ガス削減】環境効率 <sup>*2</sup> [t-CO <sub>2</sub> /百万円]		0.56	0.53	0.51	0.46	0.50		—
【廃棄物削減】環境効率 <sup>*3</sup> [t/百万円]		0.14	0.14	0.16	0.16	0.19		—
売上高(連結)[百万円]		84,837	90,419	91,227	94,799	90,016		P.48
総資産(連結)[百万円]		122,674	135,158	143,378	135,146	126,824		P.48

2007年度集計よりグループ会社である「株式会社ロジテムツムラ」、「株式会社クリエイティブサービス」、「上海津村製薬有限公司」、「深圳津村製薬有限公司」のパフォーマンス指標の集計を開始しましたが、上記は「株式会社ツムラ」の集計となっています。

- \*1 温室効果ガス：「京都議定書」の6ガスを対象としています
- \*2 【温室効果ガス削減】環境効率：〔温室効果ガス排出量〕／〔売上高〕
- \*3 【廃棄物削減】環境効率：〔廃棄物総排出量〕／〔売上高〕
- \*4 静岡・茨城両工場にてエキス抽出工程に投入した生薬量
- \*5 本社、全国の支店・営業所は除きます
- \*6 医療用エキス顆粒および一般用医薬品エキス顆粒の生産量
- \*7 全国の支店・営業所、西日本物流センター、山荘は除きます

### ■ 環境に関する特記事項

- 石岡センターは2008年度にゼロエミッションを達成しました。
- 静岡・茨城両工場は継続してゼロエミッションを達成しました。
- ツムラ ライフサイエンス株式会社を株式譲渡しました。
- ツムランドに関する事業を譲渡しました。

### ■ 報告対象組織

株式会社ツムラ国内事業所

### ■ 環境に関する規制遵守の状況

2008年度は規制当局からの指導、勧告、命令、処分を伴う環境関連法規制などの違反はありませんでした。

## 温室効果ガス排出量の削減、省エネルギーに関して 中長期的な観点での対策を検討・実施し、 低炭素社会の実現に貢献しています。

### 地球温暖化防止の方針

天然の産物である生薬を原料とする当社にとって気候変動は大きなリスクと捉え、中期環境目標を設定して全社一丸となった取り組みを強化しています。

([P.17-18](#) 参照)

### 2008年度の取り組み

医薬品の漢方エキス顆粒の生産量が前年度比15.1%増加しており、温室効果ガス排出量は対前年度比3.9%増加しましたが、2008年度の1990年度比温室効果ガス排出量は22.4%の削減となりました。

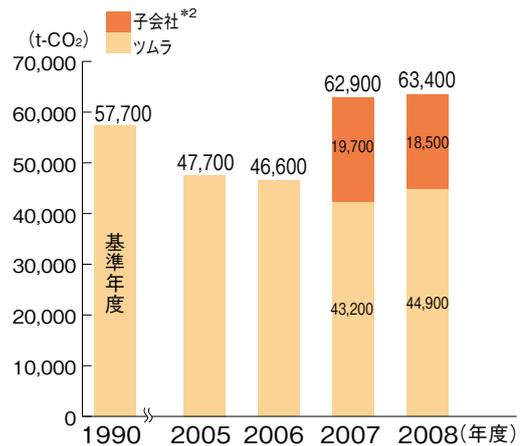
静岡・茨城両工場、石岡・藤枝両センターでは、冷凍機・空調機などエネルギー効率の高い設備や省エネ機器を導入するとともに、省エネ活動を推進し温室効果ガス排出量の削減を図っています。オフィス部門でも、事業所ごとに毎月温室効果ガス排出量を開示し進捗を確認することで、省エネやエコドライブなどの取り組みを促進しています。上海津村、深圳津村においても、効率的な生産計画や省エネ活動により温室効果ガス排出量の削減を進めています。

ロジテムツムラでは毎年燃費3%向上を目標に掲げて活動しています。一定速度走行、アイドリングストップなどを徹底することで軽油の使用量削減を目指しています。

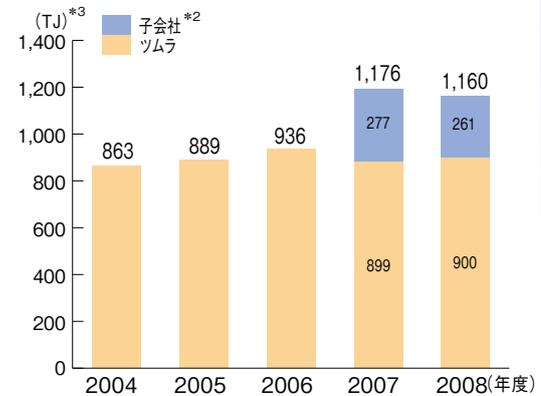
当社グループ全体の情報システムを管理する情報技術部では、システムを運用するデータセンターにおいて仮想化技術<sup>\*1</sup>を用いたサーバ統合を段階的に実施しました。従来の175台のサーバを20台に集約して、約246 tの温室効果ガスを削減することができました。これは、本社ビルの年間排出量に相当します。

<sup>\*1</sup> 仮想化技術：1台のサーバコンピュータを複数台の仮想的なコンピュータに分割し、それぞれに別のOSやアプリケーションソフトを動作させる技術

### 温室効果ガス排出量 JACO



### エネルギー使用量 JACO



関連データ：事業所別温室効果ガス排出量…P.45

事業所別エネルギー使用量…P.45

<sup>\*2</sup> 子会社：ロジテムツムラ、クリエイティブサービス、上海津村、深圳津村

<sup>\*3</sup> TJ=1,000GJ J(ジュール)：国際単位系のエネルギーの単位  
1Jは1N(ニュートン)の力が物体を1m動かすときのエネルギー

### 今後の展開・目標

生産量が増加しており、エネルギー使用量の増加は避けられない状況ですが、さらに省エネを推進するとともに、エネルギー使用状況の「見える化」を進め、エネルギーの「ムダ取り」を進めていきます。新中期環境目標の達成にむけて新技術の導入や効果的な対策などの検討を行い、全社一丸となって取り組んでいきます。

## 生薬を原料とする当社にとって、豊かな自然環境は重要な事業基盤です。水や生物資源の持続可能な利用のための取り組みを行っています。

### 水資源保護に関する方針

再利用できる水については、可能な限り再利用し、節水活動を進めることで、水の使用量削減と循環的利用を推進します。

### 2008年度の取り組み

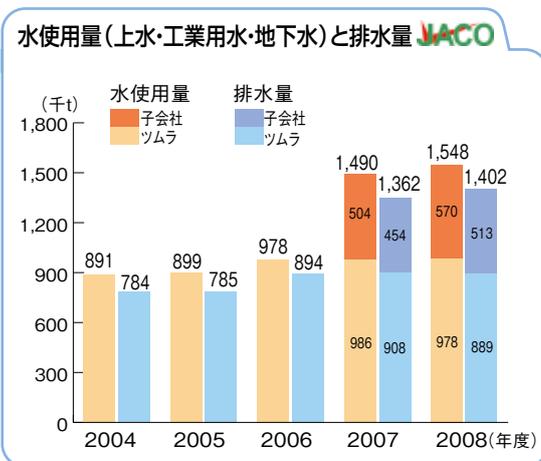
精製水の製造過程で発生した排水や排水処理後の処理水をウォータースクラバー\*1 および雑用水系へ再利用しています。また自動水栓を順次導入し、節水対策を実施しています。

静岡・茨城両工場においては抽出液濃縮工程での冷却水の回収を実施しており、静岡工場では2008年度の回収率\*2は54.7%となりました。排水については、法規制を遵守した管理を徹底しており、2008年度も全ての基準を満たしています。茨城工場では、霞ヶ浦周辺の水環境保護を目的としたアサザプロジェクト(☞P.28参照)に引き続き参加しました。

\*1 ウォータースクラバー：排出ガスを水で洗浄し、大気に放出される有害物質を削減する装置

\*2 回収率：抽出液濃縮工程における冷却水の中で、回収利用されている水量が占める割合

関連データ：事業所別水使用量・排水量…P.47  
水質汚濁物質排出量…P.47



### 今後の展開・目標

水の循環利用による節水活動を進めていきます。国内に限らず、大量の水を使用している上海津村においても国内のエキス粉末製造工程と同様な濃縮冷却水の循環を検討しています。

### 化学物質の管理に関する方針

化学物質の有害性に応じて購入・使用禁止・削減などの自主基準を定めた「ツムラ化学物質管理基準(2002年制定)」にもとづき、使用量の把握、代替化を進めています。

当社で使用する化学物質のうち、PRTR制度(化学物質排出移動量届出制度)の届出対象物質は、これまで着実に減らしてきたことにより、2006年度以降アセトニトリルのみとなりました。アセトニトリルは原料生薬から製品に至るまでの成分調査において溶媒として使用しています。また、次に使用量が多いクロロホルムについても、品質試験方法の変更や代替検討を進めています。

化学物質はイントラネット上の「試薬販売モール」を通じて購入することで、保有する物質量を把握・管理しています。その他、MSDS\*3の定期的更新、法規制教育、パトロール、緊急時対応訓練など運用管理の向上に取り組んでいます。

関連データ：PRTR制度対象物質の排出量・移動量…P.46

\*3 MSDS：製品安全データシート(Material Safety Data Sheet)。化学物質の性状および取り扱いに関する情報を記載した化学物質安全性データシート

### VOICE



#### 静岡工場における化学物質管理

静岡工場 品質試験課  
榎原 巖

静岡工場では品質試験方法の代替によりクロロホルム使用量の削減に取り組み、2008年度には7.5kg削減しました。医療用漢方製剤129品目中127品目が対象であり、2009年3月末で品質試験方法の代替は111品目が完了し、残り16品目についても2009年6月までに代替を完了する予定です。

化学物質の管理向上として、157物質のMSDSを最新版へ更新しました。また、コンサルタントによる教育会の実施、工場内パトロールや化学物質漏洩時の緊急時対応訓練を実施しました。

## 循環型社会の実現にむけて、継続的に ゼロエミッションの達成に取り組んでいます。

### 廃棄物削減・再資源化方針

産業廃棄物（特別管理産業廃棄物含む）の再資源化率\*100%をゼロエミッションと定義しています。やむを得ず排出する廃棄物については、適切な廃棄物処理業者を選定し可能な限り最終処分量の削減を進めています。生産量の増加に伴い、廃棄物の発生量の増加は必至ですが、リデュースやリユースを積極的に行い、廃棄物絶対量の削減に取り組んでいきます。

\*産業廃棄物再資源化率[%]=産業廃棄物再資源化量/産業廃棄物排出量×100

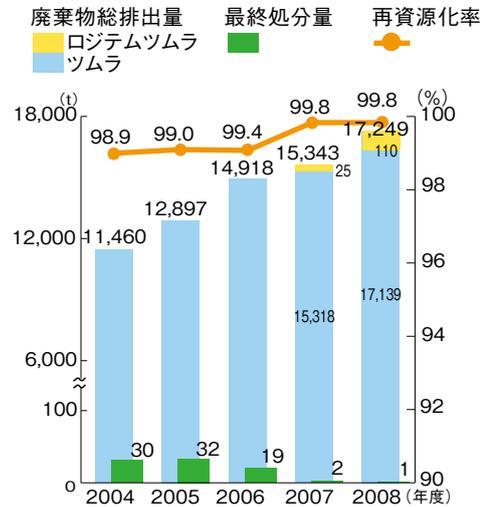
### 2008年度の取り組み

生産量増加に伴い廃棄物発生量が増加していますが、廃プラスチックや、梱包材などを有価物へ転換することにより排出量の削減を進めています。産業廃棄物に関しては、静岡・茨城両工場でゼロエミッションを継続しています。2008年度は石岡センターにおいてもゼロエミッションを達成しました。その他、リユースコーナーの活用など廃棄物の有効利用に努めました。

これらの取り組みの結果、2008年度の全社廃棄物総排出量は17,249t（一般廃棄物含む）のうち再資源化率は99.8%となりました。

2007年度に石岡センター敷地内で、過去の埋設物によると思われる土地の陥没があったため、自主的に廃掃法、土壌汚染対策特別措置法にもとづく調査を行いました。その結果、土壌分析において、一部分において鉛が基準値150mg/lに対して若干多い170mg/lとなりその他は全て基準値以内でした。埋設物には、コンクリートや紙くずなどが混ざっていたため分別して、廃棄物として適切に処分し、

### 廃棄物総排出量・最終処分量・再資源化率 JACO



関連データ：事業所別廃棄物総排出量・最終処分量・再資源化率……P.46

汚染土壌についても全量を掘削排出した後、洗浄プラントで適正に処理しました。この件については、法的な届出義務はありませんが自主的に茨城県に報告をしています。

### 生薬残さの再資源化

漢方製剤の製造過程で排出される生薬残さは、2008年度13,970t発生しましたが、堆肥化などによって全量を再資源化しました。

### 今後の展開・目標

廃プラスチックの有価物転換や、ビニール袋、ダンボール箱などの梱包材の見直しによる減量化を進め産業廃棄物のゼロエミッションを継続します。また主な廃棄物である生薬残さの新たな再資源化方法についても検討を進めています。

### VOICE

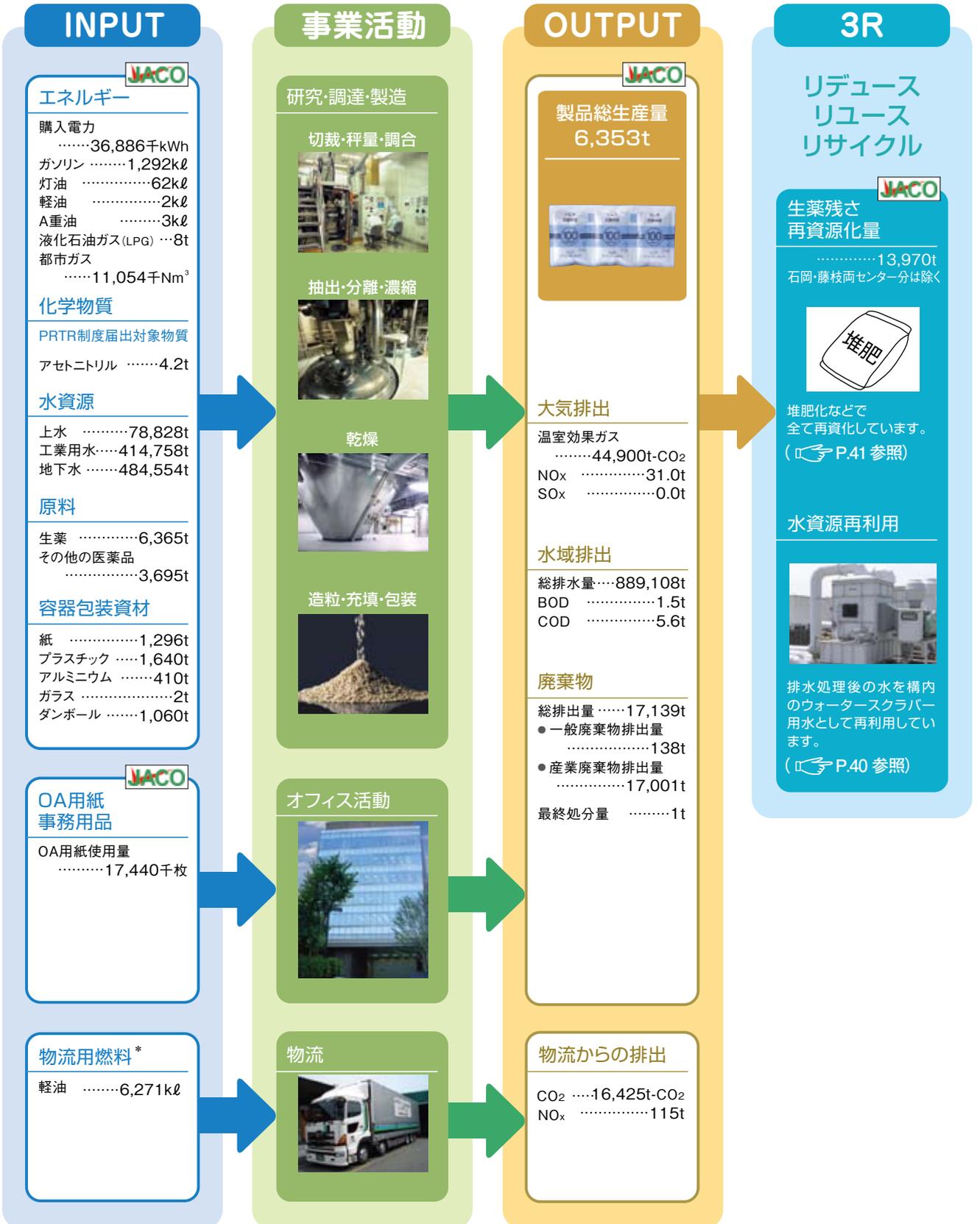
#### 茨城工場における 廃棄物を有価資源とする 取り組み



茨城工場 環境管理課  
片倉 薫

茨城工場は2006年度から3年連続でゼロエミッションを達成しています。この活動を支えているものは、30種類以上におよぶ分別です。廃棄物の中には、有償にて資源物取引業者様に売却できるものがあり、「有価物」と呼んでいます。「有価物」は、乳糖のフレキシブルコンテナ、原材料の紙袋、ダンボール、ビニール袋、ラップなど10品目以上となっています。「有価物」は、次の資源となるため、汚さないこと、他のものを混入しないことを含め、大切に扱うことが必要です。茨城工場では、推進グループである「省資源部会」のメンバーを中心に、さらなる分別徹底、並びに「有価物」に転換する品目を検討し、これらの活動を通して循環型社会を目指します。

【パフォーマンスデータ集計範囲】 株式会社ツムラ国内事業所  
 【集計対象期間】 2008年4月1日～2009年3月31日



\* ロジテムツムラほか外部委託先における燃料使用量を省エネ法に定められた従来トンキロ法で算出しています

# 「環境基本理念」「環境基本方針」にもとづき、 環境管理体制を整備し、 継続的な環境保全活動を推進しています。

## 環境管理体制

「ツムラ環境基本理念」「ツムラ環境基本方針」のもと、専任部門としてCSR推進室、担当役員を委員長とする「ツムラ環境委員会」を設置して環境管理活動を実施しています。2009年8月、「ツムラ環境管理規程」を制定し、環境管理の体制と役割をより明確にしました。

国内の生産拠点である静岡・茨城両工場では環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001を2001年に取得し、環境管理体制を構築しています。また石岡センターでは2008年10月に茨城県エコ事業所に登録し、環境管理活動を推進しています。本社、事業所では独自の管理体制で継続的に改善しています。

## 2008年度の取り組み 環境監査

静岡・茨城両工場ではISO14001にのっとった内部環境監査を実施するとともに、ISO14001 審査登録機関による外部審査も受審しています。静岡・茨城両工場ともに、ISO14001 審査登録機関による維持審査の結果、2008年2月に適合の判定を受けました。

また、これまで独自の管理体制において実施していた環境監査は、監査の客観性や独立性を確保するため、2009年4月より本社環境推進部門から内部監査部門へ移管しました。

## 緊急時対応

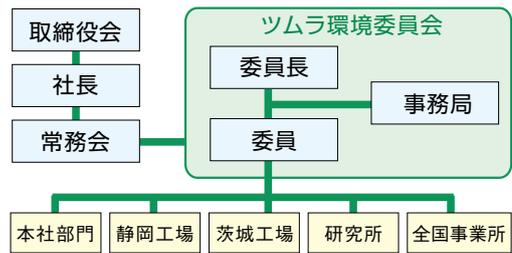
生産部門では、以下のような緊急事態を想定した対応を実施しました。

- フロンガス漏洩
- 排水処理施設トラブル
- 危険物漏洩
- 蒸気設備安全弁トラブル
- 薬液(苛性ソーダ、塩酸、有機溶剤)漏洩
- 悪臭発生
- ばい煙発生施設トラブル
- 脱色処理装置トラブル
- 光化学オキシダント警報発令

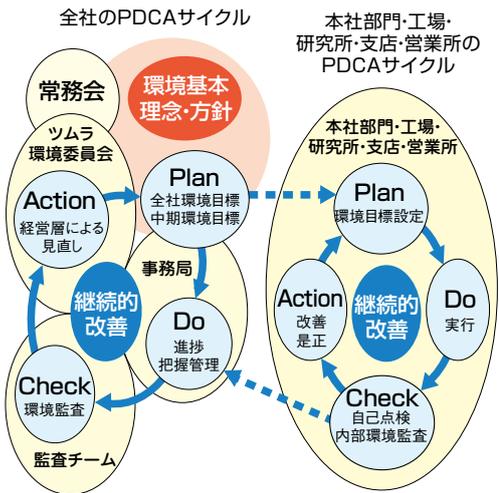
## 今後の展開・目標

今後は、社内において環境管理規程の周知を図り、環境経営にむけた取り組みをより一層充実させるとともに、日本国内でなく海外子会社も含めた当社グループの管理体制について検討していきます。

## 環境管理体制



## 全社環境マネジメントシステム



## ロジテムツムラの緊急時対応

産業廃棄物収集運搬車両の接触事故に伴う燃料油漏洩を想定した緊急時対応訓練を実施しました。



緊急時対応訓練

## 地球環境問題への意識を高め、 環境保全の実践に結びつけるために、 環境教育や啓発活動を推進しています。

### 環境教育・啓発活動方針

環境基本理念・方針にもとづき、環境に対する当事者意識を持てるように、2001年度から継続的に環境教育や啓発活動を実施しています。当社の事業は自然とのかかわりが深く、事業継続のためにも自然との共生が必要であると全従業員が理解することが重要だと考えています。

### 環境教育・啓発の取り組み

#### ● 環境展

環境意識の啓発を目的とした「ツムラ環境展」を本社で開催しました。「地球温暖化」をテーマに京都議定書や地球温暖化防止にむけた取り組みについて体験型の展示で紹介し、120名が来場しました。また、環境省の学習教材である「地球温暖化 今、私たちにできること」の上映会も実施しました。



ツムラ環境展（本社）

#### ● 環境月間イベント

環境月間である6月に環境意識の啓発を目的に「忍び寄る破局～地球温暖化」の上映会を実施しました。参加した従業員からは、「改めて地球環境が危険にさらされていることを認識した」「今後は何をすべきかではなく、今何をしなければならないか考えさせられた」という感想が寄せられ、上映会を通じて環境に対する意識が高まりました。

#### 2008年度 環境教育・啓発実績 JACO

内 容	実施回数(回)	のべ参加人数(名)
一般教育	117	2,892
専門教育	82	1,078
内部監査員教育	3	9
外部業者への環境方針 や依頼事項の伝達	2	2
環境標語募集	2	546
緊急時対応訓練	45	359

### 今後の展開・目標

新しく設定したツムラ中期環境目標の社内周知を徹底します。工場だけでなくオフィスにおいても「見える化」を意識した啓発を実施し、ツムラ中期環境目標の達成を目指して全社一丸となって取り組んでいきます。

### ツムラ グリーンフォトコンテスト

#### ツムラ グリーンフォトコンテスト 2008 入賞作品



守りたい自然  
大賞・夏の金賞  
「大地いっぱい向日葵畑」  
札幌支店 営業推進課  
原田 知彦



守りたい自然 春の金賞「桜の園」  
分析センター 微生物試験グループ  
平山 秀樹



守りたい自然 秋の金賞「柿の木」  
名古屋支店 津営業所  
飯岡 美佳



守りたい自然 冬の金賞「霜」  
仙台支店 学術課  
飯村 二三男

写真をとおして環境に対する意識を高めることを目的として、「ツムラ グリーンフォトコンテスト」を2001年度から開催しています。2008年度も「守りたい自然 春・夏・秋・冬」「身近な環境問題」の5つの項目において募集し、入選した作品は本報告書や社内報、プロモーション資材などに活用して、環境啓発に役立てています。

- 2005年10月に日本生薬を吸収合併し、石岡・藤枝センターとしました。
- 2007年度からクリエイティブサービス、ロジテムツムラ、上海津村、深圳津村の集計を開始しました。
- 2007年5月に本社は賃貸ビルに移転しました。
- 2008年8月にツムラ ライフサイエンス株式会社を株式譲渡したため、2006年10月分社化から除いています。

## ■ 地球温暖化防止

### 事業所別温室効果ガス排出量(CO<sub>2</sub>換算) [t-CO<sub>2</sub>]

事業所名	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
本社	846	1,240	1,100	662	656
静岡工場	24,900	23,400	19,800	16,700	14,500
茨城工場	13,800	14,300	16,400	17,300	20,000
研究所	3,910	3,980	3,970	3,150	4,170
石岡センター		507	1,110	1,170	1,500
藤枝センター		247	606	689	635
支店・営業所	4,130	3,980	3,620	3,480	3,440
合計	47,600	47,700	46,600	43,200	44,900
クリエイティブサービス				24	28
ロジテムツムラ				1,370	1,130
上海津村				12,500	12,800
深圳津村				5,870	4,520
総合計	47,600	47,700	46,600	62,900	63,400

※「地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)」の「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」算定マニュアルにもとづいて算出しています  
 ※購入電力由来の排出量は、環境省の公表する各電力会社提供の排出係数を使用しています  
 ※上海津村、深圳津村の電力排出係数はGHG Protocol の最新の係数(0.788kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用しています  
 ※上海津村の蒸気排出係数は温対法の係数(0.060kg-CO<sub>2</sub>/MJ)を使用しています  
 ※2005年度から本社に西日本物流センター、山荘を加算しています

### 事業所別エネルギー使用量(熱量換算) [GJ]

事業所名	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
本社	21,319	30,314	26,914	16,104	14,471
静岡工場	408,991	397,734	387,137	328,994	288,767
茨城工場	279,876	289,922	332,475	367,630	403,075
研究所	84,595	87,862	88,549	81,838	89,792
石岡センター		13,046	29,423	33,546	34,937
藤枝センター		5,428	13,180	14,266	13,452
支店・営業所	67,843	64,666	58,352	56,350	55,007
合計	862,624	888,971	936,031	898,730	899,501
クリエイティブサービス				701	676
ロジテムツムラ				22,426	18,777
上海津村				177,078	183,067
深圳津村				76,616	58,324
総合計	862,624	888,971	936,031	1,175,551	1,160,345

※省エネルギー法にもとづき、購入電力は生産拠点のみ昼夜別の係数(昼9.97MJ/kwh、夜9.28MJ/kwh)を使用しています  
 ※上海津村、深圳津村の購入電力係数は9.97MJ/kwhを使用しています  
 ※都市ガスの発熱量換算係数は各供給会社の係数を使用しています  
 ※本社ビルは2007年6月以降の電力はビル占有部分のみ、都市ガスの使用はありません

## ■ 大気汚染防止

### 大気汚染物質排出量[t]

事業所名		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
ツムラ	NO <sub>x</sub>	41.74	40.52	34.46	27.33	30.97
ロジテムツムラ					6.35	5.19
合計		41.74	40.52	34.46	33.67	36.16
ツムラ	SO <sub>x</sub>	5.60	3.31	1.52	0.15	0.00
	ばいじん	0.94	1.09	0.28	0.27	0.14

※上海津村、深圳津村は除きます  
 ※車両からのNO<sub>x</sub>を加算しています

■ 化学物質管理 PRTR制度対象物質の排出量・移動量[t] ※( )内は2007年度分 

事業所名	化学物質名	年間使用量	排出量			敷地内埋立処分	移動量		
			大気	公共用水域	土壌		廃棄物含有量	公共下水道	他事業者の排水処理施設
静岡工場	アセトニトリル	1.0(1.2)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1.0(1.2)	0(0)	0(0)
茨城工場 研究所	アセトニトリル	3.2(2.5)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3.2(2.5)	0(0)	0(0)

■ 廃棄物削減・再資源化 事業所別廃棄物総排出量・最終処分量[t]・再資源化率 

事業所名		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
本社	廃棄物総排出量	190	141	234	59	10
	最終処分量	21	22	9	0	0
	再資源化率	85.2%	82.9%	87.0%	89.6%	100.0%
静岡工場	廃棄物総排出量	8,222	9,062	8,861	7,443	6,575
	最終処分量	1	1	1	1	1
	再資源化率	99.8%	99.9%	99.9%	99.8%	99.8%
茨城工場	廃棄物総排出量	2,982	3,367	5,318	7,505	9,853
	最終処分量	2	1	1	0	1
	再資源化率	98.3%	99.5%	99.6%	99.9%	99.9%
研究所	廃棄物総排出量	66	217	247	132	428
	最終処分量	6	5	7	0	0
	再資源化率	45.7%	85.1%	93.7%	100.0%	98.8%
石岡センター	廃棄物総排出量		45	142	137	236
	最終処分量		2	1	0	0
	再資源化率		32.3%	85.8%	99.0%	100.0%
藤枝センター	廃棄物総排出量		65	116	41	36
	最終処分量		2	0	0	0
	再資源化率		97.0%	100.0%	99.3%	88.4%
合計	廃棄物総排出量	11,460	12,897	14,918	15,318	17,139
	最終処分量	30	32	19	2	1
	再資源化率	98.9%	99.0%	99.4%	99.8%	99.8%
ロジテムツムラ	廃棄物総排出量				25	110
	最終処分量				0	0
	再資源化率				97.6%	100.0%
総合計	廃棄物総排出量	11,460	12,897	14,918	15,343	17,249
	最終処分量	30	32	19	2	1
	再資源化率	98.9%	99.0%	99.4%	99.8%	99.8%

※集計対象は一般廃棄物および特別管理産業廃棄物を含む産業廃棄物です  
 ※再資源化率=再資源化量/廃棄物総排出量×100  
 ※全国の支店・営業所、西日本物流センター、山荘、クリエイティブサービス、上海津村、深圳津村は除きます  
 ※2005年度から茨城工場に計上していた研究所分を按分計上しています  
 ※2007年度から本社の一般廃棄物は除いています

■ オフィスの取り組み

グリーン購入率・OA用紙使用量 

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
グリーン購入率[%]	75	78	81	80	84
OA用紙使用量*[千枚] *A4換算	19,674	18,440	17,757	16,953	17,440

※エコ商品の基準はエコマーク、グリーンマーク、グリーン購入法適合商品、GNPデータブック掲載商品です  
 ※クリエイティブサービス、ロジテムツムラ、上海津村、深圳津村は除きます

■ 水資源保護

事業所別水使用量・排水量[t] (上水・工業用水・地下水) JACO

事業所名		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
本社	水使用量	9,900	14,883	12,884	4,549	5,398
	排水量	9,900	14,883	12,884	4,549	5,398
静岡工場	水使用量	571,010	547,524	550,033	520,004	492,790
	排水量	483,779	473,385	485,227	458,389	441,711
茨城工場	水使用量	265,446	285,265	350,634	402,343	433,927
	排水量	290,237	290,131	381,681	429,307	428,196
研究所	水使用量	45,019	45,374	49,833	43,356	32,222
	排水量	※研究所の排水は茨城工場に含みます				
石岡センター	水使用量		3,593	9,964	10,276	9,043
	排水量		3,593	9,964	10,276	9,043
藤枝センター	水使用量		2,536	4,384	5,211	4,760
	排水量		2,536	4,384	5,211	4,760
合計	水使用量	891,375	899,175	977,732	985,739	978,140
	排水量	783,916	784,528	894,140	907,732	889,108
クリエイティブサービス	水使用量				328	343
	排水量				328	343
ロジテムツムラ	水使用量				2,584	2,423
	排水量				2,584	2,423
上海津村	水使用量				500,996	566,930
	排水量				450,896	510,237
深圳津村	水使用量				105	53
	排水量				100	48
総合計	水使用量	891,375	899,175	977,732	1,489,752	1,547,888
	排水量	783,916	784,528	894,140	1,361,640	1,402,159

※生産拠点以外は水使用量=排水量とします

※全国の支店・営業所は除きます

※2007年度から本社ビルは除きます(本社は西日本物流センター、山荘分)

水質汚濁物質排出量[t] JACO

静岡工場

茨城工場

上海津村

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度		2007年度	2008年度
BOD	1.01	0.69	0.65	0.89	0.80	BOD	0.60	0.49	0.43	0.67	0.67	BOD	2.59	2.55
COD	2.16	2.14	2.24	2.08	1.82	COD	1.14	1.07	1.59	4.19	3.79	COD	4.12	5.94
SS	0.91	0.99	0.94	0.89	0.93	SS	0.33	0.14	0.24	0.19	0.17	SS	-	-
窒素	1.05	0.47	0.47	0.54	0.26	窒素	0.60	0.73	0.81	0.79	0.93	窒素	0.05	0.06
リン	0.027	0.026	0.030	0.027	0.022	リン	0.008	0.004	0.010	0.013	0.011	リン	-	-

※研究所分も含みます

■ 環境会計 JACO

集計範囲: 株式会社ツムラ国内事業所

対象期間: 2008年4月1日~2009年3月31日

参考ガイドライン: 環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

環境保全コスト[千円]

コストの分類	主な取り組み内容	投資	費用
(1) 事業エリア内コスト		548,792	581,223
公害防止コスト	大気汚染・水質汚濁・悪臭の防止など	59,663	158,953
地球環境保全コスト	地球温暖化防止・省エネルギー、オゾン層破壊防止など	456,399	88,328
資源循環コスト	資源効率的利用、廃棄物リサイクル・処理・処分など	32,730	333,942
(2) 上・下流コスト	容器包装などの低環境負荷化、製品の回収・リサイクル再商品化、適正処理など	0	16,942
(3) 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの整備運用、情報開示・環境広告、環境教育など	1,588	186,617
(4) 研究開発コスト	環境保全に資する製品の研究開発など	0	21,118
(5) 社会活動コスト	環境保全を行う団体などに対する寄附、支援など	0	2,289
(6) 環境損傷対応コスト	自然修復、引当金繰入額・保険料など	0	42,773*
(7) その他コスト	放射線障害の防止など	0	0
合計		550,380	850,962

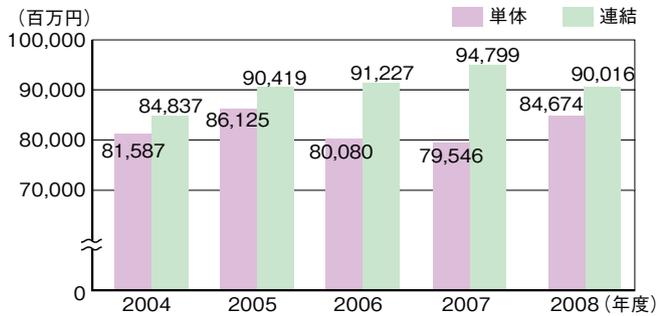
環境保全対策に伴う経済効果[千円]

	効果の内容	金額
収益	有価物の売却益	14,398
費用節減	フレコン・ダンボール・紙袋等廃棄物の有価物化に伴う廃棄物処理費の削減額(金属は除く)	34,952
合計		49,350

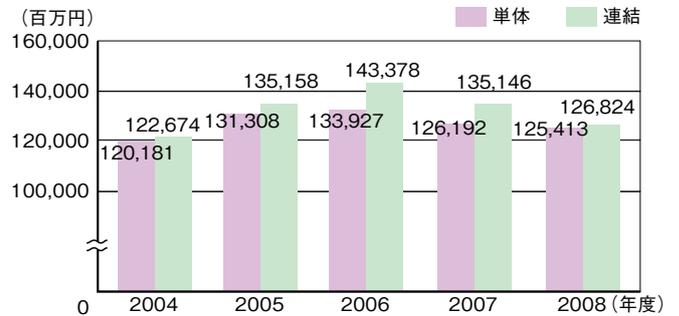
\*石岡センター敷地内から排出された埋設物処理として計上しています

## ■ 経済性報告 JACO

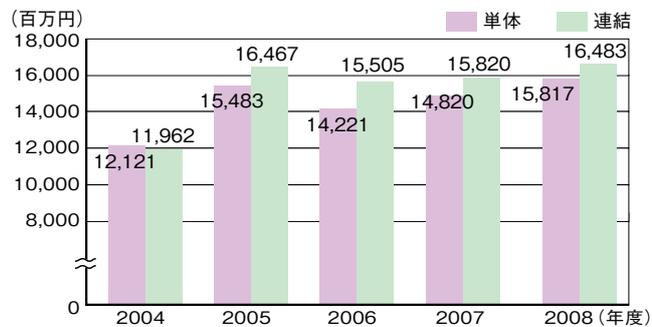
### 売上高



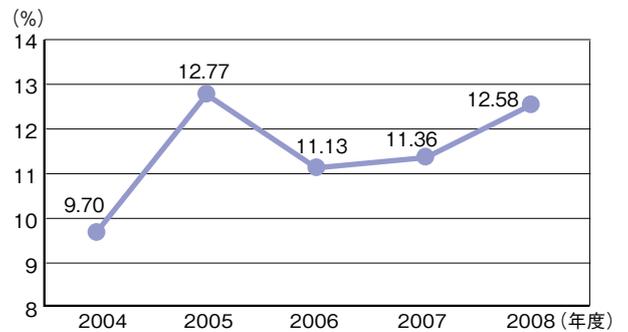
### 総資産



### 営業利益

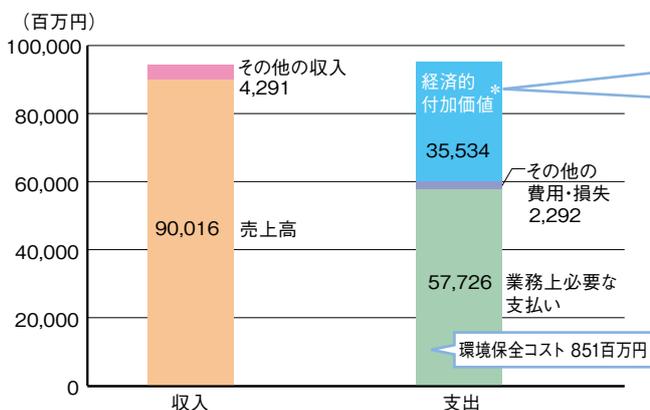


### ROA(総資産営業利益率)(連結)

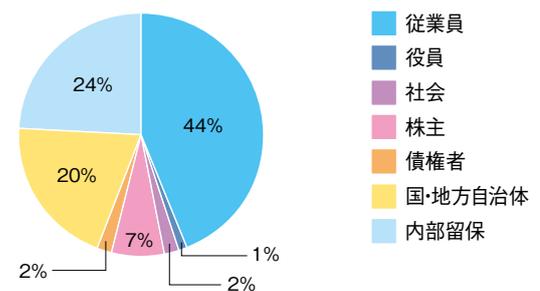


### 経済的付加価値の分配

「経済的付加価値の分配」とは、当社グループとステークホルダーとの経済的なかわりとして、事業活動を通じて患者さま、お客様からいただいた収益が、最終的に株主様、国・地方自治体、従業員、社会(コミュニケーション、社会貢献活動)などどのようなバランスで分配されているかを表すものです。



### 経済的付加価値の分配



\* 収入から業務上必要な支払いとその他の費用・損失を除いた額



チュウジョウトウ  
中將湯 (1893年頃)



関東大震災後の津村順天堂本店

環境・社会活動のあゆみ

年度	活動内容	環境・社会活動への取り組み
1893	● 津村順天堂を創業・婦人良薬「中將湯」を製造販売	
1924	● 津村研究所と津村薬草園を創設	
1936	● 株式会社津村順天堂を設立	
1964	● 静岡工場を竣工	
1974	● 医療用漢方製剤を販売	
1976	● 医療用漢方製剤の薬価基準収載(33処方)	
1982	● 東京証券取引所第一部に株式上場昇格	
1983	● 茨城工場を竣工、研究所を同敷地内に移転 ● 国際漢方シンポジウムを開催	
1986	● 新本社社屋が完成・移転	
1988	● CIを実施し社名を「株式会社ツムラ」に変更	
1991	● 深川津村薬業有限公司を設立	● 茨城工場で公害防止管理委員会を発足
1992		● 静岡工場で第1コジェネレーションシステムを導入
1993	● 創業100周年	● 静岡工場で第2コジェネレーションシステムを導入 ● 静岡工場が「資源エネルギー庁長官賞」を受賞
1996		● 茨城工場で環境管理委員会を発足
1997		● 静岡工場で環境委員会を発足
1998	● ホームページを開設	● 研究所に化学物質浄化装置「ウォータースクラバー」を設置 ● 茨城工場敷地内に工業用水施設を竣工
1999		● ツムラスタンダード(行動憲章・行動基準)を制定 ● 茨城工場で工業用水施設を稼働
2000	● 上海事務所を開設	● 総務部環境管理課を設置 ● ツムラ環境委員会を発足し、ツムラ環境基本理念・方針を制定 ● 茨城工場で氷蓄熱システムを稼働 ● 静岡工場がISO14001認証取得
2001	● 上海津村製薬有限公司を設立 ● 中国における生薬栽培化研究について、協力協議書を締結 ● 韓国でツムラOTC漢方製剤10品目の販売を開始	● 生薬残さのリサイクル事業がリサイクル推進協議会が実施するリサイクル推進功労者等表彰で「厚生労働大臣賞」を受賞 ● 茨城工場がISO14001認証取得
2002	● 漢方治療を行う医療施設検索サイト「漢方のお医者さん探し」に協賛	● 「公正取引委員会経済取引局長表彰」を受賞 ● ツムラ コンプライアンス・プログラムを制定 ● 環境報告書をはじめて発行
2003	● 創業110周年	● ツムラ・オイスカ宜昌生態記念林プロジェクトを開始 ● 茨城工場でコジェネレーションシステムを導入
2004	● 西日本物流センターを竣工	● 霞ヶ浦・北浦アサザプロジェクトへの参加 ● 藤枝市まち美化里親制度への参加
2005	● 連結子会社 日本生薬株式会社を吸収合併	● 静岡工場ですべて都市ガスへの燃料転換を開始
2006	● 旧本社ビル売却 ● 家庭用品事業の分社化(ツムラ ライフサイエンス株式会社) ● 茨城工場で漢方エキス粉末製造設備増設 ● 単元株式数の変更	● 茨城工場ですべてゼロエミッション達成 ● チームマイナス6%へ参加 ● 「公正取引委員会委員長表彰」を受賞
2007	● 本社ビル移転 ● 「今年のロボット」大賞2007産業用ロボット部門優秀賞を受賞 ● 「第10回日経アンニュアルレポート・アワード」佳作受賞	● 静岡・茨城両工場ですべてゼロエミッション達成 ● 静岡工場 「藤枝市・もったいない運動」へ参加 ● 茨城工場が茨城県エコ事業所に登録
2008	● ツムラ漢方記念館リニューアルオープン ● ツムラ漢方記念館グッドデザイン賞受賞 ● 東日本物流センターが移転 ● ツムラ ライフサイエンス株式会社の株式を譲渡 ● 医療用外用抗真菌薬「アスタット®」の製造販売承認を承継 ● ツムランドに関する事業を譲渡	● 静岡・茨城両工場、石岡センターですべてゼロエミッション達成 ● 「中国四川大地震」へ支援実施 ● 協働の森づくり事業「土佐ツムラの森」の協定を締結 ● 茨城工場が労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS)認定を取得 ● 石岡センターが茨城県エコ事業所に登録

## 第三者検証報告書



### 「ツムラ環境・社会活動報告書 2009」 第三者検証報告書

2009年7月28日

株式会社ツムラ  
代表取締役社長  
芳井 順一 殿

株式会社日本環境認証機構  
代表取締役社長

下井 泰典

この検証報告書は、株式会社ツムラ(以下、ツムラ)が自らの責任において作成した「ツムラ環境・社会活動報告書2009」(以下、報告書)を第三者である株式会社日本環境認証機構(以下、JACO)が重要性、網羅性、対応性および信憑性を検証した結果について、見解を記述したものです。  
尚、検証は AA1000 保証基準(英国 AccountAbility 策定)を参考としました。

#### 1. 検証期間

平成 21 年 6 月 9 日～平成 21 年 7 月 24 日

#### 2. 検証範囲

1)本社 2)静岡工場、3)茨城工場、4)研究所、5)石岡センター、6)藤枝センター  
7)株式会社ロジテムツムラ、8)上海津村製薬有限公司、および9)深圳津村製薬有限公司

#### 3. 結論

本報告書は医薬品製造販売業、とりわけ漢方製剤の伝統ある製造販売会社としてのツムラの組織特性を踏まえ、AA1000 保証基準(重要性、網羅性、対応性)を参考とし、本報告書の充足性、および記述情報の信憑性について以下の通り適切であることを確認しました。

##### 3. 1 「重要性」に関する情報開示

株主、医療関係者、患者、取引先および従業員などツムラの主要なステークホルダーに関連する情報開示が適正に行われています。また、労働環境の整備、教育訓練、研究開発体制の整備および地域とのコミュニケーションに関する情報など、ステークホルダーの判断、意思決定に必要な環境、社会、経済に関する重要な情報についても適切に開示されていることを確認しました。

##### 3. 2 「網羅性」に関する情報開示

報告内容は組織の発展と持続可能性に配慮し、環境(温室効果ガス、廃棄物等)をはじめとする企業倫理(順法、フェアトレード等)、雇用の多様性、財務情報、社会貢献などの情報を網羅的に幅広く取上げていることを確認しました。

##### 3. 3 「対応性」に関する情報開示

製品の安全・安心、温室効果ガス排出量削減による低炭素社会への対応、コミュニケーション、リスクマネジメント、コーポレート・ガバナンス、再資源化による循環型社会への対応、障害者雇用率向上、ワークライフバランスの推進、労働安全衛生の向上など企業を取り巻く多様なニーズを認識し、持続可能な社会に向けて対応していることを確認しました。

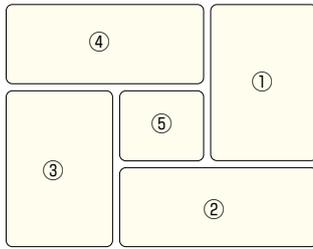
##### 3. 4 記載情報の「信憑性」

特に定量データを中心に、信憑性の確認を行いました。信憑性の確認はデータの発生から収集・集計、確認、報告・掲載までの一連のデータ管理プロセスについて関連する証拠、担当部署へのヒアリングに基づき確認しました。

(※確認を行ったデータ等については検証ロゴマーク JACO を付記)

#### 【検証の独立性、客観性】

ツムラと JACO は、特定の利害関係がなく、独立した立場で検証を行いました。



■ 表紙について

- ① 附子の栽培指導
- ② 選別作業(石岡センター)
- ③ 製造:スプレードライヤー(茨城工場)
- ④ 残留農薬試験(分析センター)
- ⑤ 生薬「附子」

漢方製剤の安全・安心について、原料生薬の栽培から漢方製剤として患者さまのお手元に届くまでを特集1 (P.11 ~ 16) で報告しています。その工程である栽培・調達・製造・品質管理の写真を表紙に掲載しています。



この報告書に関するお問い合わせ先

株式会社ツムラ  
CSR推進室

〒107-8521 東京都港区赤坂二丁目17番11号

TEL. 03-6361-7102 FAX. 03-5574-6634

この報告書の内容は、ホームページでもご覧いただけます。



<http://www.tsumura.co.jp/csr/index.htm>

